

令和6年度
社会福祉研修・介護実習普及センター
研 修 事 業 報 告 書

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
社会福祉研修・介護実習普及センター
(京都市長寿すこやかセンター 研修部)

目 次

□ 研修体系	1
□ 京・福祉の研修情報ネット事業	2
□ 社会福祉研修事業	4
□ 介護実習・普及センター事業	4 2
□ 認知症介護実践研修	5 8
□ 区役所・支所福祉業務職員研修	6 6

社会福祉研修・介護実習普及センター研修体系

令和6年度

社会福祉研修事業	キャリアパス研修		福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔初任者コース〕
			福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔中堅職員コース〕
			福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔チームリーダーコース〕
			福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔管理職員コース〕 Zoom オンライン研修
	人権研修		福祉職員人権研修（新任・中堅職員編）
			福祉職員人権研修（指導的・管理的職員編）
	専門課題別研修	援助技術系	社会福祉援助基礎講座
			利用者の声を聴く
			アセスメント・プランニング
			ケース記録の基礎と活用
			スーパービジョン基礎講座
			アサーション 【中止】
			福祉職場のマナー研修 オンライン動画視聴型
			地域協働セミナー
		組織運営系	はじめての広報研修 オンライン動画視聴型
			リスクマネジメント(一般職員編)
			リスクマネジメント(担当職員編)
			福祉職員のためのコーチング講座
			問題解決のための思考法
			職場内研修担当職員研修
			社会福祉実習担当職員研修
			ファシリテーション
			OJTリーダー育成研修
			福祉職員のためのアンガーマネジメント講座
			プレゼンテーション研修 Zoom オンライン研修
			モチベーション・マネジメント ハイフレックス型研修
			福祉職場のよりよい人間関係研修
その他の研修		施設長等管理者・リーダーセミナー	
		京都市新規採用職員研修（福祉施設体験オリエンテーション）【中止】	
		介護支援専門員実務研修受講試験のための受験対策講座	
介護実習・普及センター事業	市民講座	介護基礎講座	
		介護体験講座	
		やさしい介護講座	
	専門職研修	介護研修〈基本〉	
		介護研修〈応用〉	
		ステップアップ研修	
	介護機器普及事業	福祉用具展示・見学	
		福祉用具情報提供	
		福祉機器シミュレーション事業	
		介護・福祉用具の相談・情報提供	
認知症介護実践研修		認知症介護実践者研修	
		認知症介護実践リーダー研修	
区役所・支所福祉業務職員研修		新任・2年目対象研修・新任係長等対象研修	

京・福祉の研修情報ネット事業

京・福祉の研修情報ネット事業

京・福祉の研修情報ネット事業の実績

		累計
ホームページのアクセス数	閲覧回数（実際このページが閲覧された回数）	840,179
	訪問者数（閲覧ページ数のうち、30分以内の同一IPアドレスからのアクセスを一人とみなしたもの）	181,015
研修情報ネットからの申込者数		2,316
研修主催者登録数		66
研修情報登録数（新規）		193
メールマガジン登録者数		506



福祉の研修情報ネット

Kyoto City Social Work Training Information Network

スキルアップ!!



福祉に役立つ情報が満載!

福祉の仕事に携わる人、ボランティア活動をしている人、福祉のことを学びたい人、そんなみなさんに役立つ研修や講座が、京都でもたくさん開催されています。「京・福祉の研修情報ネット」は、それらの情報を紹介するホームページです。

京・福祉の研修情報ネットでできること

1

研修情報の検索・閲覧

研修・講座をさまざまな条件で絞り込み、ご希望の研修情報を見ることができます。各主催者いち押しの研修・講座も注目情報からチェックできます。

2

申込手続きもらくらく

参加したい研修や講座が見つかったら「**申し込み**」をクリック! その場で簡単に申込手続きができます。
※研修によっては、本サイトからの申込が設定されていないものがあります。

3

メールマガジンの配信

あなたが希望する研修・講座の最新情報を、随時お届けします。

4

登録は

「メールマガジン申し込み」からメールアドレスを入力するだけ!



京・福祉の研修情報ネット事業事務局（社会福祉研修・介護実習普及センター）

〒600-8127 京都市下京区西本願町通上ノロ上る橋通町 83-1 ひと・まち交流館 京型 TEL: 075-354-8771 E-mail: info@miyako-kenkyu-net.jp

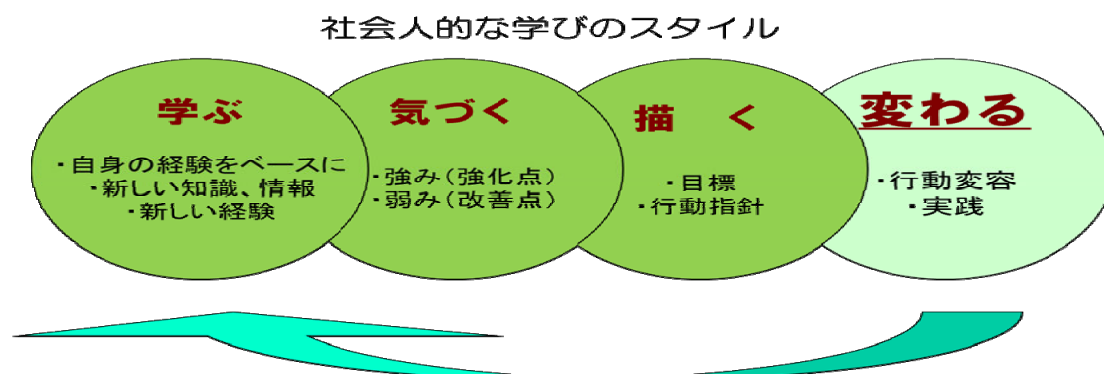
設置 京都市／運営 社会福祉法人京都市社会福祉協議会

社 会 福 祉 研 修 事 業

社会福祉研修事業

今年度の状況と研修実施後の行動変容についてのアンケート結果（3ヶ月後アンケート結果）

研修は、学習したことを受講後に実践することで、業務に活かすことができ、サービスの質の向上等に役立てることができます。

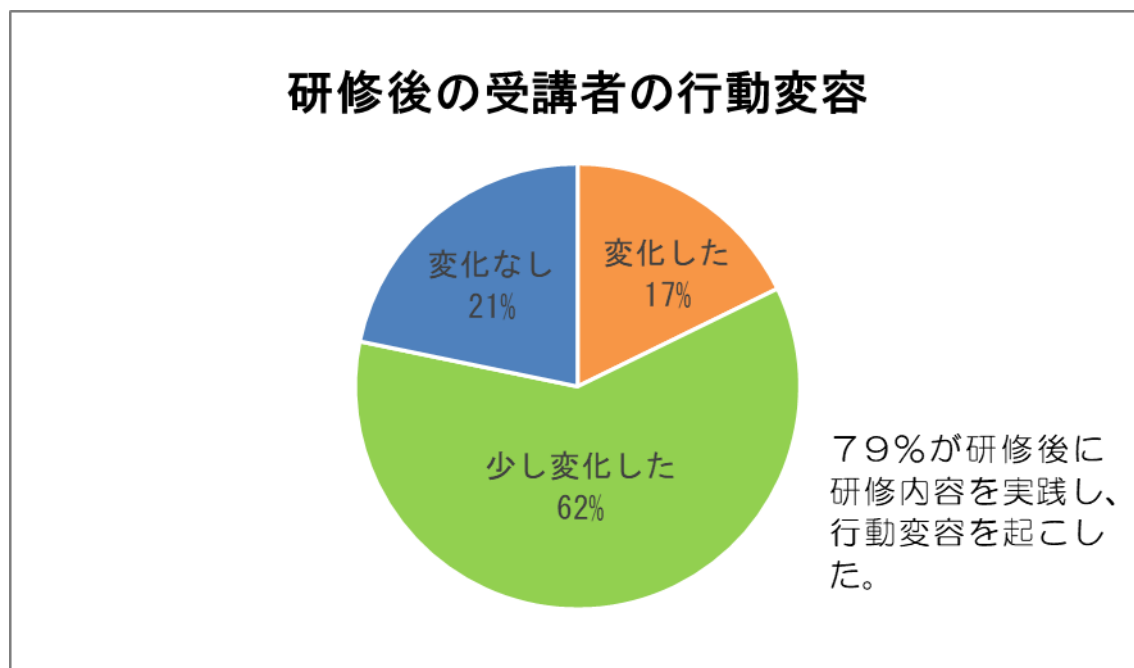


社会福祉研修事業において、研修実施後に受講者が研修内容を実践し、どのように自らの行動を変化（行動変容）させたかについて、研修実施3ヶ月後にアンケートを実施。

令和6年度 研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート全体集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	返信数
合計	98	360	123	581
割合	17%	62%	21%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった社会福祉研修受講者581名についての結果。



社会福祉研修事業

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講者数	掲載頁
キャリアパス対応生涯研修課程					
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【初任者コース A・B・C日程】	A 6月28日 7月5日 B 8月28日 9月3日 C 12月6日 12月13日	①自身のキャリアアップの方向性について自覚を深める②福祉の基本理念と倫理について基礎を習得する③チームケアの一員としてメンバーシップやコミュニケーションの基本を学ぶ④キャリアアップに必要な啓発課題について基本を学び、啓発意欲を高める⑤福祉職員としての役割行動と行動指針を確認し、自己のキャリアデザインとアクションプランを策定する	A50 B50 C50	A23 B33 C22	10
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【中堅職員コース A・B日程】	A 6月11日 6月20日 B 10月8日 10月18日	①中堅職員としてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ②福祉の倫理と基本理念の理解を深め、実践での手法を習得する③チームケアの一員としてメンバーシップやチームワークのあり方を再認識する④中堅職員としてのキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする⑤中堅職員としての役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する	A50 B50	A31 B38	12
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【チームリーダーコース A・B日程】	A 6月3日 6月10日 B 10月29日 11月6日	①チームリーダーとしてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ②福祉の倫理と基本理念の実践的検証と考察、指導のための手法を習得する③チームリーダーとして職場の問題解決手法を学び、問題解決能力を高める④チームリーダーとしてのキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする⑤チームマネジメントの役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する	A50 B50	A41 B53	14
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【管理職員コース】 Z o o mオンライン研修	8月5日 8月6日	①福祉職員としてのキャリアデザインと職場環境のあり方を学ぶ②福祉の基本理念と倫理の徹底・浸透のための手法を習得する③管理職員としてのリーダーシップの醸成を図る④管理職員としてのキャリアアップの啓発課題を確認し、方向性を明確にする⑤職場管理・役割行動に関する行動指針を確認し挑戦目標を設定する	40	24	16
人権研修					
福祉職員人権研修 【新任・中堅職員編】 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～	9月5日	前提となる人権の考え方／ソーシャルワークにおける人権の意味／人権意識や態度と利用者支援の関係／人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性／人権意識の向上に向けたスキルアップ	40	22	18

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講者数	掲載頁
福祉職員人権研修 【指導的・管理的職員編】 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～	1月20日	ソーシャルワークにおける人権の意味／人権意識や態度と利用者支援の関係／人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性／人権意識の向上に向けたスキルアップ	30	11	19
専門課題別研修（援助技術系）					
社会福祉援助基礎講座 ～福祉の職場で働きはじめた方、働きつづけた方のために～	5月7日 5月16日	①社会福祉従事者の役割／福祉的コミュニケーション術／利用者の人権について考える（事例）／「あり」「なし」から考える事例検討／②「社会福祉」を考える・実践すること／社会福祉の「基本理念と職業倫理」を考える／社会福祉実践としての「生活支援」を考える／支援における「コミュニケーション」を考える／社会福祉の仕事の魅力や可能性	50	36	20
利用者の声を聴く ～“対人援助のプロ”としてのコミュニケーション～	10月10日	利用者の思いをどこまで受け止めているか／援助職員の普段の“聴き方”は／当事者からのメッセージ／演習（インタビューによってひとりの利用者を理解する）	30	28	21
アセスメント・プランニング ～利用者をよく知り、支援を深める～	5月28日	アセスメント・プランニング概論／ソーシャルワーク実践の基本的視点／アセスメントツール／多職種連携／記録の目的／演習	28	27	22
ケース記録の基礎と活用	2月6日	記録の意義と目的／記録の書き方の基本、留意点／記録の5要素	30	26	23
スーパービジョン基礎講座	11月14日	スーパービジョン（SV）とは／職員とのコミュニケーション／チームワーク、リーダーシップ／安心して悩める場づくり	30	30	24
アサーション ～「感情労働」から考える対人コミュニケーション～	中止 2月17日 2月18日	対人コミュニケーションについて／自己の対人関係上の特徴について／上手に伝えるためのシナリオ作りとロールプレイング／ロールプレイングとまとめ	20	—	—
福祉職場のマナー研修 ～気持ちに寄り添う～ <u>動画視聴型研修</u>	5月1日 ～9月30日	あいさつ／丁寧な話し方／表情・態度／電話対応・来客対応	40	41	25
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 地域協働セミナー	1月28日	連携・協働の意義／チームコーディネーション／実際の連携・協働の事例／地域アセスメントシート演習／連携・協働のプログラム作り演習	20	7	26
専門課題別研修（組織運営系）					
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 はじめての広報研修 ～組織と読み手をつなぐ情報発信とは～ <u>動画視聴型研修</u>	6月3日 ～8月2日	広報担当者の仕事とは／WEBサイト・SNSの運用3つの失敗例から学ぶWEBサイト・SNSに掲載しておきたい情報とは？	—	38	27

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講者数	掲載頁
リスクマネジメント研修 【一般職員編】 ～現場職員の基礎知識と心構え～	2 月 3 日	リスクマネジメント概論／福祉・介護現場におけるリスクマネジメント／リスクマネジメントを進める体制整備／事故防止／苦情対応／私の施設・事業所のリスクは？対応の強みと弱み／事故対応・苦情解決のシミュレーション	30	22	28
リスクマネジメント研修 【担当職員編】 ～利用者・家族・地域に信頼される組織づくりを目指して～	5 月 13 日 5 月 27 日	苦情申立から見た事故・苦情の処理／事後処理と保険／インシデントレポートの活用／職場での課題解決の実践	40	23	29
福祉職員のためのコーチング講座 ～主体性を引き出し、人を育てるコミュニケーション～	11 月 11 日	コミュニケーションの重要性／コーチングとは（コーチングとティーチングの違い、リーダーシップスタイルの違い、コーチングとカウンセリングの違い）／信頼関係が基礎となるコミュニケーション／コーチングの基本スキル（聴く、認める、質問する）／コーチング実践（話の聴き方トレーニング、コーチングフロー）	24	24	30
問題解決のための思考法 ～TOC を活用した取り組みやすくなる工夫～	11 月 7 日	問題解決の思考の流れ／制約理論 T O C とは／クラウドワーク／対立する意見の先にある共通の目的を見つける／歩み寄るために／謝の表明等	24	23	31
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 職場内研修担当職員研修 ～職場の活性化を図る研修を企画しよう！～	2 月 20 日	実践報告「各施設での職場内研修の取り組みと課題」 「職場の活性化」をテーマとした研修プランを作成	20	13	32
〔京都児童福祉施設実習教育連絡協議会〕 社会福祉実習担当職員研修	9 月 7 日	ソーシャルワーク実習とキャリア形成／実習担当指導者の立場からの話題提供（児童養護施設、介護老人保健施設）／養成校の立場からの話題提供（同志社大学、龍谷大学） 話題提供を受けての気づきや感想の共有、学生への実習指導や職員の確保と定着のための意見交換	50	37	33
ファシリテーション ～人を動かし、会議を活性化させる～	7 月 31 日 8 月 7 日 午後のみ	ファシリテーションの基本的考え方／人の意見やアイデアを引き出す技術／ラボラトリーという考え方（学びの循環）／チーム・ビルディングの大切さ／自分の性格や癖の分析と行動対策／まとめる技術の実践／可視化の重要性と技術／ファシリテーション会議運営の実践	24	24	34
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 O J T リーダー育成研修 ～人を育てる！職場が変わる！～	7 月 11 日 9 月 12 日	OJT とは／リーダーの役割／OJT 構築の方法／O J T のためのコミュニケーション（コミュニケーションタイプ）／現場実践共有	24	23	35

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講者数	掲載頁
福祉職員のためのアンガーマネジメント講座 ～怒りの感情と上手につきあうために～	1 月 31 日	アンガーマネジメントとは／怒りの感情とは／アンガーマネジメント実践テクニック／自分の怒りの傾向に合わせた対処法／怒りの原因となりやすい6つのコアビリーフ／アンガーマネジメントを習慣化するために	40	13	36
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 心に響く！伝える技術 プレゼンテーション研修 <u>Z o o m</u> オンライン研修	6 月 25 日	プレゼンテーションの基礎知識／プレゼンテーションの種類／プレゼンテーションの流れ／ストーリー作り／T E Dに学ぶプレゼンテーション／演習 プレゼンテーションの実際	24	17	37
モチベーション・マネジメント ～職員のやる気を引き出す～ <u>ハイフレックス型研修</u>	【来場・Zoom】 8 月 23 日 【動画配信】 9 月 17 日 ～11 月 15 日	研修転移／外発的動機と内発的動機／ESなくしてCSなし／M I N D S E T／A B C理論／価値創造としての仕事／今後の実践プランをつくる	【来場】 24 【Zoom】 24 【動画】 40	【来場】 23 【Zoom】 8 【動画】 12	38
福祉職場のよりよい人間関係研修	7 月 17 日 午後のみ	職場とは／チームとは何か／コミュニケーションを考える／言語・非言語のコミュニケーション／事例に基づくロールプレイ等／援助関係形成のための専門的態度	30	23	39
その他の研修					
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 施設長等管理者・リーダーセミナー	3 月 4 日	BCP の基本概念と重要性の復習／具体的な再評価の手順とポイント／再評価後の BCP の改善方法	70	50	40
〔京都市行財政局人事課〕 京都市新規採用職員研修福祉施設体験オリエンテーション	中止	福祉施設体験のオリエンテーション	—	—	—
〔京都府社会福祉協議会〕 介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修受講試験のための受験対策講座	8 月 3 日 8 月 24 日 9 月 7 日 9 月 21 日	介護支援専門員実務研修受講資格取得のための必要な知識を習得する	80	60	41

社会福祉研修事業
キャリアパス研修

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース
目 的	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。 【ねらいと目標】 ①自身のキャリアアップの方向性について自覚を深める。 ②福祉の基本理念と倫理についての基礎を習得する。 ③チームケアの一員としてメンバーシップやコミュニケーションの基本を学ぶ。 ④キャリアアップに必要な啓発課題について基本を学び、啓発意欲を高める。 ⑤福祉職員としての役割行動と行動指針を確認し、自己のキャリアデザインとアクションプランを策定する。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する入職半年以上3年未満の職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	A日程 令和6年 6月28日(金)・ 7月 5日(金) B日程 令和6年 8月28日(水)・ 9月 3日(火) C日程 令和6年12月 6日(金)・12月13日(金)
開催日数	2日
定 員	A日程：50名 B日程：50名 C日程：50名
受講人数	A日程：23名 B日程：33名 C日程：22名
申込者数	A日程：24名 B日程：34名 C日程：23名
会 場	ひと・まち交流館 京都

【A・B・C日程】

開催日	時 間	テーマ	講 師
A:6/28 (金) B:8/28 (水) C:12/6 (金)	9:30～ 17:00	《基軸科目の講義と演習》 ・キャリアデザインとセルフマネジメント 《基礎科目の講義と演習》 ・福祉サービスの基本理念と倫理 ・メンバーシップ・リーダーシップ 《重点科目の講義と演習》 ・問題解決のためのワークショップ	【A日程】 京都総合福祉協会 事務局次長 中西 大作 氏 太陽の家 京都事業部 就労支援課 課長 坂本 和也 氏 【B日程】 レーベン横大路居宅支援事業所 管理者 馬場 孝雄 氏 児童養護施設 迦陵園 施設長 若林 里仁 氏 【C日程】 京都総合福祉協会 事務局次長 中西 大作 氏 嵐山寮 嵐山在宅部・嵯峨野地域密着部 部長 西野 栄里子 氏
A:7/5 (金) B:9/3 (火) C:12/13 (金)	9:30～ 17:00	《啓発科目の講義と演習》 ・能力開発 ・業務解決の解決と実践研究 ・リスクマネジメント ・チームアプローチと多職種連携・地域協働 ・組織運営管理 《行動指針と行動計画の策定》	

研修後の受講者の行動変容 〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
初任者A（人）	3	12	0	15
初任者B（人）	4	19	1	24
初任者C（人）	5	9	0	14
割合	23%	75%	2%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修(初任者コース)53名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・注意を受けた時に、どのようにしたら改善するか具体的に考えられるようになり、介助に集中できていると思います。
- ・自分地図を書いたことが指針となって今の自分の目標をもって向き合う気持ちが持てるようになりました。
- ・自分自身の課題や他者から期待されていることを振り返り目標を明確にしたことで、目標達成のために今すべきことを考え行動に移せるようになりました。また、自分の価値観を確かめられたことで、日々の支援でも自分自身が大切にしたい視点を意識できるようになりました。
- ・メモに「Todo リスト」を作り、実行できたらチェックを入れるようにしたことで見落としや小さな業務も忘れることがなくなったように感じます。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース
目 的	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。 【ねらいと目標】 ①中堅職員としてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ。 ②福祉の倫理と基本理念の理解を深め、実践での手法を習得する。 ③チームケアの一員としてメンバーシップやチームワークのあり方を再認識する。 ④中堅職員としてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする。 ⑤中堅職員としての役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する 入職後概ね3年～5年程度の節目の職員（担当業務の独力遂行が可能なレベルの職員）
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	A日程 令和6年 6月11日（火）・20日（木） B日程 令和6年10月 8日（火）・18日（金）
開催日数	各2日
定 員	A日程：50名 B日程：50名
受講人数	A日程：31名 B日程：38名
申込者数	A日程：32名 B日程：39名
会 場	ひと・まち交流館 京都、京都リサーチパーク

【A・B日程】

開催日	時 間	テーマ	講 師
A:6/11(火) B:10/8(火)	9:30～ 17:00	《基軸科目の講義と演習》 ・ キャリアデザインと セルフマネジメント 《基礎科目の講義と演習》 ・ 福祉サービスの基本理念と倫理 《重点科目の講義と演習》 ・ メンバーシップと コミュニケーションについて	【A日程】 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 採用・育成担当部長 小谷 雅敏 氏 六満こども園 園長 内海 日出子 氏
A:6/20(木) B:10/18(金)	9:30～ 17:00	《啓発科目の講義と演習》 ・ 人材育成・能力開発 ・ 業務解決の解決と実践研究 ・ リスクマネジメント ・ チームアプローチと 多職種連携・地域協働 ・ 組織運営管理 《行動指針と行動計画の策定》	【B日程】 京都障害者福祉センター デイスポット 楽 放課後等デイサービス すてーじ 施設長 政田 美由紀 氏 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 採用・育成担当部長 小谷 雅敏 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
中堅A（人）	3	15	1	19
中堅B（人）	3	20	3	26
割合	13%	78%	9%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修(中堅職員コース)45名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・客観的に物事を捉えるようできるだけ前向きに行動して仕事をするようになりました。人の見方を変えることによって自分のストレスが少し減りました。
- ・自己期待と他者期待を確認しながら、現状で自分のできていることを考えて業務に取り組んでいます。
- ・中間職員として良きフォロワーとして、フロアリーダーや職員の意見の仲介や、フロア環境を見直す提案が積極的にできました。人によってコミュニケーションを変え信頼関係の更なる構築に専念しています。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース
目 的	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。 【ねらいと目標】 ①チームリーダーとしてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ。 ②福祉の倫理と基本理念の実践的検証と考察、指導のための手法を習得する。 ③チームリーダーとして職場の問題解決手法を学び、問題解決能力を高める。 ④チームリーダーとしてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする。 ⑤チームマネジメントの役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する ・近い将来チームリーダー等の役割を担うことが想定される職員 ・現に主任、係長等に就いている職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	A日程 令和6年 6月 3日(月)・10日(月) B日程 令和6年10月29日(火)・11月6日(水)
開催日数	2日
定 員	A日程：50名 B日程：50名
受講人数	A日程：41名 B日程：53名
申込者数	A日程：43名 B日程：55名
会 場	ひと・まち交流館京都、京都リサーチパーク

【A・B日程】

開催日	時 間	テーマ	講 師
A:6/3 (月) B:10/29 (火)	9:30～ 17:00	《基軸科目の講義と演習》 ・キャリアデザインとセルフマネジメント 《基礎科目の講義と演習》 ・福祉サービスの基本理念と倫理 ・メンバーシップ・リーダーシップ 《重点科目の講義と演習》 ・対人能力；叱る	【A日程】 ベテスダの家・イマジン 統括管理者 中西 昌哉 氏 京都市うずまさ学園 施設長 竹内 竜也 氏
A:6/10 (月) B:11/6 (水)	9:30～ 17:00	《啓発科目の講義と演習》 ・能力開発 ・業務解決の解決と実践研究 ・リスクマネジメント ・チームアプローチと多職種連携・地域協働 ・組織運営管理 《行動指針の策定》 《キャリアデザインシートと行動計画の策定》	【B日程】 京都市うずまさ学園 施設長 竹内 竜也 氏 南山城学園 障害者支援施設 紡 施設長 村地 正浩 氏

受講後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
チームA（人）	2	21	2	25
チームB（人）	4	27	6	37
割合	10%	77%	13%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修(チームリーダーコース)62名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自分が発言することの重要さなどを改めて意識するようになりました。ユニット内でのミーティングの大切さ、部下への話し方を常に意識して心がけるようになりました。
- ・よい支援をするためによいチームであることが大切だとの意識は、自分だけでなく、周囲のスタッフももつことができ始めていると思います。
- ・自分から職員とのコミュニケーションの取り方に変化があったように思います。「きく」ことを意識することで、職員の悩みや考えが少しずつ分かるようになり、状態に応じ、「きくに徹する」、「ティーチング」、「コーチング」の使い分けを意識するようになりました。前より話しかけられたり雑談する機会が増えたように思います。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員コース ZOOMオンライン
目 的	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。 【ねらいと目標】 ① 福祉職員としてのキャリアデザインと職場環境のあり方を学ぶ。 ② 福祉の基本理念と倫理の徹底・浸透のための手法を習得する。 ③ 管理職員としてのリーダーシップの醸成を図る。 ④ 管理職員としてキャリアアップの啓発課題を確認し、方向性を明確にする。 ⑤ 職場管理・役割行動に関する行動指針を確認し挑戦目標を設定する。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する、 近い将来管理者の役割を担うことが想定される指導的立場の職員 現に小規模事業管理者・部門管理者等に就いている職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年8月5日（月）・6日（火）
開催日数	2日
定 員	40名
受講人数	24名
申込者数	25名
会 場	なし

【日程】

開催日	時 間	テーマ	講 師
8/5（月）	10:30～ 15:45	《基軸科目の講義と演習》 ・キャリアデザインとセルフマネジメント 《基礎科目の講義と演習》 ・福祉サービスの基本理念と倫理 ・メンバーシップ・リーダーシップ 《重点科目の講義と演習》 利用者本位サービス実現と権利侵害防止に向けた取り組み	日本女子大学人間社会学部教授 キャリアパス対応生涯研修課程 テキスト編集委員会委員 久田 則夫 氏
8/6（火）	10:30～ 15:45	《啓発科目の講義と演習》 ・能力開発 ・業務解決の解決と実践研究 ・リスクマネジメント ・チームアプローチと多職種連携・地域協働 ・組織運営管理 《行動指針の策定》 《キャリアデザインシートと行動計画の策定》	

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
管理職員コース(人)	1	16	3	20
割合	5%	80%	15%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修(管理職員コース)20名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自身がモチベーションのクリエーターになるべく行動するよう意識的に動いていることで、変化してきていると実感しています。
- ・定期面談を行い、職員のモチベーション向上、コミュニケーションを図る事ができました。業務マニュアルの見直しも取り組むことができました。

社会福祉研修事業 人権研修

研修名	福祉職員人権研修《新任・中堅職員編》 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～
目 的	「人権」とは、実はとても身近で具体的なものです。この研修では、日頃の社会福祉実践や自らのコミュニケーションのあり方などを振り返ります。 そして、利用者のみならず、私たち働く側の人権についてもその「具体的な意味」を考えます。職場内研修でも取り組むことのできる多彩な演習も魅力です。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年9月5日（木）
開催日数	1日
定 員	40名
受講人数	22名
申込者数	24名
会 場	ひとまち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
9/5 (木)	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・前提となる人権の考え方 ・ソーシャルワークにおける人権の意味 ・人権意識や態度と利用者支援の関係 ・人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性 ・人権意識の向上に向けたスキルアップ	京都府立大学公共政策学部 名誉教授 中村 佐織 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人権—新任中堅(人)	3	11	4	18
割合	17%	61%	22%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職員人権研修（新任・中堅職員編）18名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自分の言葉遣い、職員間の言葉遣いなど意識し、注意するべきところは上司に相談しつつしていきましました。
- ・利用者に話をする際は、他の利用者にも配慮して話をするようになりました。
- ・言動がやさしくなってきたように思います。
- ・「伝わるだろう」という私の価値観では伝わらないかもしれない、ということを頭に置いて伝える。伝わったかを意識するようになりました。

研修名	福祉職員人権研修《指導的・管理的職員編》 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～
目 的	人権とは、利用者のみならず、職員にとっても大切なものです。 この研修では、人の権利を守る専門職としての倫理について学び、それを職員にわかりやすく説明する力を鍛えます。また、お互いの価値観を認め合い、人間関係を円滑にする方法等、身近な事例から具体的に学びます。職員の人権意識を高め、支援の質の向上や、利用者も職員も大切に作る職場づくりに活かしましょう。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的・管理的職員
共 催	京都市保育園連盟
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年1月20日（月）
開催日数	1日
定 員	30名
受講人数	11名
申込者数	12名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
1/20 (月)	10:00～ 16:30	《講義・演習》 ・ソーシャルワークにおける人権の意味 ・人権意識や態度と利用者支援の関係 ・人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性 ・人権意識の向上に向けたスキルアップ	京都府立大学公共政策学部 名誉教授 中村 佐織 氏

受講後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人権―指導管理(人)	1	5	3	9
割合	11%	56%	33%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職員人権研修（指導的・管理的職員編）9名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・多様性の中で、感じ方・考え方の違いを否定せず、相手を認めるよう意識しています。
- ・自分も相手も大切にする行動・支援に努めています。
- ・自分自身の言動を振り返ったり、書き留めたりし、できる限り不適切にならないよう自覚するようになりました。

社会福祉研修事業
専門課題別研修(援助技術系)

研修名	社会福祉援助基礎講座 ～福祉の職場で働きはじめた方・働きつづけたい方のために～
目 的	社会福祉の仕事の基本を理解し、やりがいをもって働き続けるための基礎を学ぶとともに、日々の援助や自身のこれまでを振り返る機会とします。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任職員（職務経験が概ね3年未満の方）
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年5月7日（火）・16日（木）
開催日数	2日
定 員	50名
受講人数	36名
申込者数	41名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
5/7 （火）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・社会福祉援助の基本と福祉職員の 心構え	日本福祉大学 社会福祉学部 准教授 藤井 渉 氏
5/16 （木）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・社会福祉の理念とソーシャルワー ク	同志社大学 社会学部 教授 空閑 浩人 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
援助基礎（人）	9	16	6	31
割合	29%	52%	19%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった社会福祉援助基礎講座31名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・以前は、伝える内容を分かる限り伝えるのが良いと思っていましたが、今は相手に必要な内容をピンポイントで伝えられるようになったと思います。
- ・行動の優先順位が変わりました。協力しないとできないこと一人でできること、協力体制を作ることの必要性、大切さを意識、実践しています。
- ・その方の目線に立って考えるようになりました。今まで話せなかった利用者と話せるようになりました。

研修名	利用者の声を聴く ～「対人援助のプロ」としてのコミュニケーション～
目 的	「利用者主体」とは、利用者や当事者の「声になりにくい声」や「聞き流しがちな声」をしっかりと聴き、受けとめることから始まります。それは、「自分のことを自分で決めたい」「人間として尊重されたい」という誰もがもっている権利であり、家族や支援者に対するさまざまな想いです。 この研修では、これまでの日頃の聴く姿勢を振り返り、見つめ直しながら、対人援助のプロとしてのコミュニケーションや、利用者の思いへの理解を深めます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する初任、中堅職員（職務経験５年未満の方）
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和６年１０月１０日（木）
開催日数	１日
定 員	３０名
受講人数	２８名
申込者数	３１名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
10/10 (木)	10：00～ 16：30	《講義》 ・「利用者の声を聴く」ということ ・“対人援助のプロ”としてのコミュニケーション	大阪公立大学 現代システム科学域 准教授 三田 優子 氏

研修後の受講者の行動変容〔３ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
利用者の声（人）	7	14	3	24
割合	29%	58%	13%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった利用者の声を聴く研修２４名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・他の支援者がどういった方法で支援をしているか、何か見落としがないかというのを常に意識しながら取り組めるようになりました。
- ・利用者が自分で選択して得られるような声掛けを意識するようになりました。本当に話したいことを表出できるような声かけができていくか振り返るようになりました。
- ・「うなづき」「あいづち」「繰り返し」「言い換え」の技術を使い分けています。

研修名	アセスメント・プランニング ～利用者をよく知り、支援を深める～
目 的	アセスメント・プランニングは、支援の方向性を定める重要な過程です。ここでは利用者の「困難な状況の把握」に加え利用者のもつ「意欲や能力・資源等を発見」することが求められます。しかし現実には、具体的にどうすれば良いのかわからない！という方も多いのではないのでしょうか。 この研修では、アセスメントの基礎から「エコロジカル視点・ストレングス視点」等といった援助視点の習得を通し、質の高い支援の実施を目指します。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年5月28日（火）
開催日数	1日
定 員	28名
受講人数	27名
申込者数	27名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
5/28 (火)	10:00～ 16:30	《講義・演習》 ・アセスメント・プランニング概論 ・アセスメント・プランニング演習	同志社大学社会学部 教授 野村 裕美 氏

研修後の受講者の行動変〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
アセプラ（人）	4	15	6	25
割合	16%	60%	24%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったアセスメント・プランニング25名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・客観的な行動の変化のみではなく、対象者の思いの変化等にも気が付けるよう、記録を作成するようになりました。
- ・職場で使っている以外のアセスメントシートも思い浮かべながら、こういったことを聞けばニーズの把握に繋がるかもしれないと考えながら業務ができるようになってきました。
- ・支援者側が捉える課題は焦点をあてすぎることなく、利用者のリアルニーズは何か日々の会話からくみ取れるよう意識しています。

研修名	ケース記録の基礎と活用
目 的	ケース記録は、利用者の状況把握や職員間の情報共有、サービスの見直し等、支援の質の向上に欠かせないものです。また、リスクマネジメントやクレーム対応の観点からも大変重要です。 この研修では、ケース記録の目的や意義を理解し、事実と判断を区別した誰が見てもわかりやすい記録作成のポイントや活用方法を学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年2月6日（木）
開催日数	1日
定 員	30名
受講人数	26名
申込者数	27名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
2/6 (木)	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・記録の意義と目的 ・記録の書き方の基本・留意点 ・記録の5要素	京都保育福祉専門学院 副学院長 京都ほせん研修センター センター長 岡本 匡弘 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
記録（人）	5	13	3	21
割合	24%	62%	14%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったケース記録の基礎と活用 21 名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・記録が後で重要な資料になってくる場合もあるので、感情にとらわれない客観的な見方、書き方をするようになりました。
- ・5W1Hのどれかが抜けがちだったので、意識するようになりました。NGワードを何気なく使用していましたが、書く前に気づき、表現の仕方を変えられるようになりました。
- ・自分の勝手な判断や推測を事実かのように記録しないようにしています。人によりイメージが違う表現は避けて記録し見直しています。
- ・毎日の支援会議がより充実した中身のあるものになりました。利用者個々の分析がしやすくなりました。

研修名	スーパービジョン基礎講座
目 的	この研修では、職員を支え、育てるために必要なスーパービジョンの基礎を学びます。対人援助の価値を振り返り、支援の気づきを促す方法や、職員が自分の強みを活かせる関わり方などを学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員を指導する立場の方
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年11月14日（木）
開催日数	1日
定 員	30名
受講人数	30名
申込者数	31名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
11/14 （木）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・スーパービジョンとは ・職員とのコミュニケーション ・チームワーク、リーダーシップ ・安心して悩める場づくり 等	同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 空閑 浩人 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
SV基礎講座(人)	4	11	7	22
割合	18%	50%	32%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったスーパービジョン基礎講座 22 名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・支援する中での出来事や体験を言語化することを意識し、互いにチームで共有する時間を大切にするようになりました。
- ・職員の誰がどんな考えを持っていて、それに向けての協力を一人一人に伝え、どのように解決するのか意見交換の場を作りました。
- ・働き始めたころを思い出し、どのようにすれば不安解消につながるか考えながら指導を行いました。

研修名	～気持ちに寄り添う～ 福祉職場のマナー研修 オンライン動画視聴型研修
目 的	社会人になったばかりで丁寧な対応に自信がないとか、福祉職場でのマナーを学ぶ機会がなかったなど、どうすればご利用者等に信頼してもらえる丁寧な接し方ができるか、お悩みではありませんか？ この研修では、丁寧な対応がご利用者等の安心、信頼につながる「福祉職場のマナー」を動画視聴型研修で学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年5月1日（水）～9月30日（月）
開催日数	前編：50分 後編：40分
定 員	40名
受講人数	41名
申込者数	43名
会 場	動画視聴型研修のため、会場なし

開催日	時 間	テーマ	講 師
5/1 (水) ～ 9/30 (月)	前編：50分 後編：40分	ご利用者等の気持ちに寄り添う マナー	キャリアコンサルタント 安藤 ゆかり 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
マナー（人）	12	13	5	30
割合	40%	43%	17%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職場のマナー研修30名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・安心した職場であるよう、いつも笑顔であいさつしています。職員皆さんも元気に返してくれるようになりました。
- ・職員、利用者に対して敬語を意識して話すようになりました。
- ・みんなにアウトプットしています。同じ方向を向いてみんなで頑張っています。
- ・皆さんと目線を合わせて話すことを心掛けています。自分ができる、わかると思う事でも、人それぞれに違うと意識しています。

研 修 名	地域協働セミナー
目 的	地域の中で“連携・協働する際の知識・技術” 『多職種でうまく連携して利用者を支援したいけど、どうすればいいかわからない』とか、『地域住民とよりよい関係づくりをしたい』といったことで悩むことがあると思います。 ここでは地域貢献活動を題材として取り上げて、連携・協働をスムーズにするための知識や分析方法・技術を学びます。 福祉施設・団体が取り組む住民・多職種・多機関の連携・協働を学び、利用者支援・地域貢献に活かしましょう。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的立場の職員
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年1月28日（木）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	7名
申込者数	8名
会 場	京都私学会館

開催日	時 間	テーマ	講 師
1/28 （木）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・連携・協働の意義 ・チームコーディネーション ・実際の連携・協働の事例 ・地域アセスメントシート演習 ・連携・協働のプログラム作り演習	関西福祉科学大学 社会福祉学科 准教授 南 多恵子 氏 大阪人間科学大学 社会福祉学科 講 師 岩田 貞昭 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
地域協働（人）	1	2	1	4
割合	25%	50%	25%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった地域協働セミナー4名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・これまで地域貢献という視点がありなかったが、貢献していくという視点で地域を見る機会が少しずつ増えてきました
- ・近隣のレンタルスペースを活用した取り組みを新たに追加しました。
- ・少し時間をおいて話をしたり、間に他の人が入って話を整理してもらえる場合には、違う視点からの考え方を参考にしています。

社会福祉研修事業
専門課題別研修(組織運営系)

研修名	はじめての広報研修 ～組織と読み手をつなぐ情報発信とは～ オンライン動画視聴型研修
目 的	WEBサイトやSNSを運用する際の注意点、見てもらえる記事を作成するためのポイントや想定されるリスクの管理等について学びます。 魅力的な広報で活動を知ってもらい、施設のファンを増やしましょう！
対 象	市内福祉施設・団体の広報担当者
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年6月3日（月）～8月2日（金）
視聴時間	約1時間10分
受講人数	38名
申込者数	39名
会 場	動画視聴型研修のため、会場なし

開催日	時 間	テーマ	講 師
6/3 (月) ～ 8/2 (金)	約1時間15分	・「広報担当者の仕事」とは ・WEBサイト・SNSの運用3つの失敗例から学ぶ ・WEBサイト・SNSに掲載しておきたい情報とは？	株式会社エイデル研究所 大園 早紀 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
はじめて広報(人)	1	14	15	30
割合	3%	47%	50%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったはじめての広報研修30名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・誰に向けたものか、どんな人が記事を読んでいるのかを考え、整理したことで、伝え方、文章の構成をしっかりと考えるようになりました。
- ・誰でもできるようにしていきたいという動きになっています。
- ・記事の内容は必ずダブルチェックするようになりました。

研修名	リスクマネジメント研修《一般職員編》 ～現場職員の基礎知識と心構え～
目 的	リスクマネジメントは、担当者だけでなく職場全体で取り組むことが重要です！ この研修は、職員がリスクマネジメントに対する共通認識をもち、一人ひとりが安心・安全なサービスの提供や、万が一の場合の適切・誠実な対応を実践することで、利用者・家族との信頼関係を築き、福祉・介護サービスが社会的な信頼をさらに高めることをめざします。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年2月3日（月）
開催日数	1日
定 員	30名
受講人数	22名
申込者数	23名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
2/3 (月)	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・リスクマネジメント概論 ・福祉・介護現場におけるリスクマネジメント ・リスクマネジメントを進める体制整備 ・事故防止、苦情対応 ・私の施設・事業所のリスクは？ ・対応の『強み』と『弱み』 ・事故対応・苦情解決のシミュレーション	(福) リガーレ暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
リスク一般（人）	2	12	7	21
割合	10%	57%	33%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったリスクマネジメント研修(一般職員編)21名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・リスクが想定される内容は、いったん提供する前にシミュレーションするようになりました。
- ・再発防止のためのミーティングを業務終了後に行うようになりました。
- ・リスクマネジメントを理解し、リスクマネジメント会議に有意義に参加ができるようになりました。

研修名	リスクマネジメント研修《担当職員編》 ～利用者・家族・地域に信頼される組織づくりを目指して～
目 的	「職場のリスクマネジメントは十分ですか？」 様々なリスクをできる限り予防するために「事故やヒヤリハットの要因分析のポイント」、「苦情申立に対する法的対応や事後処理と保険」、「リスクに対する組織力の活用、報告・連絡・相談のポイント等」について学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務するリスクマネジメント担当職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年5月13日（月）・27日（月）
開催日数	2日
定 員	40名
受講人数	23名
申込者数	24名
会 場	1日目：ひと・まち交流館 京都 / 2日目：京都リサーチパーク

開催日	時 間	テーマ	講 師
5/13 （月）	10:00～ 10:40	・研修オリエンテーション	（福）リガーレ暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子 氏
	10:50～ 12:00	《講義》 ・「苦情申立から見た事故・苦情の処理」	みやこ法律事務所 弁護士 小田 宏之 氏
	13:00～ 15:30	・《講義》 「事後処理と保険」	株式会社ユメコム 代表取締役 橋本 珠美 氏
	15:40～ 16:00	・1日目のまとめと2日目の準備について	（福）リガーレ暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子 氏
5/27 （月）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・インシデントレポートの活用 ・職場での課題解決の実践	（福）リガーレ暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
リスク-担当（人）	3	10	3	16
割合	19%	62%	19%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったリスクマネジメント研修(担当職員編) 16名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・ヒヤリハットの書式が複雑で、提出が少ない傾向にあったので、書式の簡素化と手書き提出に変更しました。また、周知のために休憩も兼ねた事務所に掲示・共有しました。結果、提出枚数が増え、リスクの共有という意識は高まったと思います。
- ・リスク報告が全体的に早くなりました。他部署のリスクにも気づけるようになりました。
- ・自分の意見に自信が持てずなかなか発言できないことが課題でしたが、疑問や感じたことがあれば正直に話してみようという心構えができました。以前と比べると発言も増えたかなと思います。

研修名	福祉職員のためのコーチング講座 ～主体性を引き出し、人を育てるコミュニケーション～
目 的	人を育てるスキル「コーチング」の基本を身につけることで、後輩育成に活かすとともに、指導的立場の職員としての役割を主体的に遂行できることをめざします。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的立場の職員
共 催	京都市保育園連盟
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年11月11日（月）
開催日数	1日
定 員	24名
受講人数	24名
申込者数	24名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
11/11(月)	10:00～ 16:00	《講義と演習》 ・コミュニケーションの重要性 ・コーチングとは コーチングとティーチングの違い リーダーシップ・スタイルの違い コーチングとカウンセリングの違い ・信頼関係が基礎となるコミュニケーション ・コーチングの基本スキル ・聴く（アクティブ・リスニング） ・認める（承認する） ・質問する（相手のプラスになる効果的な質問） 《コーチング実践》 話の聴き方トレーニング コーチング・フロー	株式会社ナースハート 代表取締役 井上 泰世 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
コーチング(人)	3	10	4	17
割合	18%	59%	23%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職員のためのコーチング講座20名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自分の中だけで共感するのではなく、相手に共感していることを言葉で伝えられるよう意識しています。
- ・自分が素直にうれしかったこと、ありがたいと思ったこと、助かったことを伝えるようになりました。その後、相手もそのような行動が増えました。
- ・良いところをはじめに話し、改良すべきところがあればそれに付け加えて話すようになりました。相手のプラスの態度や行動をみるようになってきました。

研 修 名	問題解決のための思考法 ～ＴＯＣを活用した取り組みやすくなる工夫～
目 的	問題を把握することや、ＴＯＣ理論による現状分析、職員が取り組みやすくするための心理的フォローの方法を学びます。 問題を解決するための手法を学び、よりよい職場づくりに活かしましょう。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的立場の職員
共 催	京都市保育園連盟
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開 催 時 期	令和６年１１月７日（木）
開 催 日 数	１日
定 員	２４名
受 講 人 数	２３名
申 込 者 数	２３名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
11/7 (木)	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・ 問題解決の思考の流れ ・ 制約理論ＴＯＣとは ・ クラウドワーク ・ 対立する意見の先にある 共通の目的を見つける ・ 歩み寄るために ・ 感謝の表明等	キャリアコンサルタント 安藤 ゆかり 氏

研修後の受講者の行動変容〔３ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
問題解決(人)	2	10	7	19
割合	10%	53%	37%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった問題解決のための思考法１９名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・ 真っ向からぶつけるだけでなく、お互いの落としどころを探すように問題解決しようとしています。
- ・ やりたいことをフォローし、支援したことで積極的な意見がもらえたり、こちらの話を聞いてもらいやすくなりました。
- ・ 質問の仕方を少し変えることで、「同意」ではなく、「意見」がもらえることがありました。

研修名	職場内研修担当職員研修 「職場の活性化を図る研修を企画しよう！」
目 的	【研修のねらい】 ・ 研修担当者として人材育成の重要性を認識し、職場内研修についての自職場での取り組みを振り返る。 ・ 自職場での職員研修を充実させる。 ・ 自職場での職員研修計画を見直す。 ⇒職場の活性化を図る。 ⇒職場の人材育成の仕組みを強化する。 【本研修プログラムの特徴】 ・ 他施設の研修計画などの情報が得られます！ ・ 研修プランニングの方法を習得することができます！！ ・ 他施設の研修担当者同士の交流を深めることができます!!!
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員で、職場内研修担当の方
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年2月20日（木）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	13名
申込者数	14名
会 場	京都私学会館 206号室

開催日	時 間	テーマ	講 師
2/20 (木)	10:00～ 11:10	《導入講義》 《実践報告》 ・各施設における職場内研修の 現状と課題	(福) 京都福祉サービス協会 施設部 本部長 井上 章 氏 《実践報告》 株式会社 Unity 代表取締役 鯉江 宏樹 氏
	11:10～ 12:00	《情報交換》	
	13:00～ 16:00	《グループ演習》 ・『職場の活性化』をテーマとし た研修プランを作成	

研修直後の受講者のアンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考に ならなかった	合計
研修担当(人)	19	6	1	26
割合	73%	23%	4%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった職場内研修担当職員研修26名についての結果。

感想（抜粋）

- ・ 目的から考えて設計をすることの大切さが分かりました。あるべき姿が描けないといけないとも思いました。
- ・ たくさんの人と創り上げる楽しさ、職員が楽しめるには、研修担当者をこうやって楽しんでつくりたいとなあと思いました。
- ・ テーマが決まりにくく難しく感じましたが、話すうちに方向性が定まり、再認識できました。考え方の共有ということにつながったため参考になり良かったと思います。

研修名	社会福祉実習担当職員研修 ～ソーシャルワーク実習とキャリア形成～
目 的	人材確保や職員の定着については、分野や施設・機関の種別を問わず、久しく社会福祉現場の課題となっています。一方で、実習指導に携わる私たち指導者や教員は、ソーシャルワーク実習（社会福祉士実習）を経験した学生たちには、ぜひ福祉の現場に就職して欲しいという願いを持っています。 学生の進路選択の自由はもちろん尊重しないといけません。しかし、学生たちが福祉現場を就職先として選択し、多くの喜びや楽しさを感じながら勤めてもらうために、私たちにできることもあると思います。 社会福祉士養成の新カリキュラムによって、現場配属実習の時間数が増えました。このことを、私たちの教育や指導の負担が増えたというだけでなく、これまで以上に学生たちの現場体験と仕事の魅力を知る機会が増えたという「好機」として捉えることはできないでしょうか。 せっかくの実習指導と実習教育に携わる私たちです。学生たちに社会福祉現場の仕事やソーシャルワークの魅力を伝え、進路選択を後押しして、就職後のキャリア形成（職業選択を含めて卒業後の人生設計を描くこと）を支えるために何ができるのか、楽しく、面白く、考えて語り合う機会にしたいと思います。
対 象	社会福祉施設・機関及び大学の実習関係者
主 催	京都児童福祉施設実習教育連絡協議会
開催時期	令和6年9月7日（土）
開催日数	1日
定 員	50名
受講人数	37名
会 場	大谷大学 慶聞館

開催日	時 間	テーマ	講 師
9/7 (土)	13:30～ 17:00	社会福祉実習担当職員研修 「ソーシャルワーク実習と キャリア形成」	《話題提供 養成校》 ① 同志社大学 教授 空閑 浩人 氏 ② 龍 谷 大 学 教授 砂脇 恵 氏 《話題提供 実習指導担当職員》 ③ 児童養護施設 迦陵園 川邊 直樹 氏 ④ 介護老人保健施設おおよけの里 勝 須実香 氏

研修直後の受講者のアンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考に ならなかった	合計
実習担当(人)	42	10	0	52
割合	81%	19%	0%	100%

感想（抜粋）

- ・キャリア形成という学生の人生を見ながらの課題提供で、視点を広く持てる機会でした。施設全体としてどのような姿勢で実習を受け入れるのか話し合いを続けて行きたいと思います。
- ・実習生にとって若い新人職員が身近な存在で、ロールモデルになっていることに気づき、若い職員が楽しく働いているかも考えることが大切だと思いました。
- ・学生の声を率直に聞けていろいろと考えることができました。職場の組織作りが若い職員や学生の人材育成に繋がることを再認識できたので明日からの仕事に活かそうと思えました。

研修名	ファシリテーション ～組織のモチベーションをアップする～
目 的	会議の司会者になることはあるけど、活発な議論ができていない... 会議はするけど結論がハッキリしない... そんな会議を行っていますか？ ミーティングや大事な会議の進行を行う時、「会議のゴールイメージ」を立てているかどうかで、結果は全く変わってきます。職員の意見を引き出す方法や協議内容共有の方法（可視化）、チームビルディングの大切さ等、効果的な「ファシリテーション」の技術について演習を交えて学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的職員
共 催	京都市保育園連盟
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年7月31日（水）・8月7日（水）
開催日数	2日
定 員	24名
受講人数	24名
申込者数	25名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
7/31 （水）	13:30～ 16:30	《講義・演習》 ・ファシリテーションとは ・チームビルディングの大切さ ・チームの力を引き出す人間力を磨く ・積極性や意見、アイデアを引き出す技術 ・会議を運営するための基本技術	キャリアコンサルタント 産業カウンセラー 講師 石井 里奈 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
ファシリ（人）	2	15	6	23
割合	9%	65%	26%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったファシリテーション23名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・伝える＝伝わるではないことを理解したため、何度も言い方を変えてみたり、自分が伝えられる側の時は、きちんと理解できるまで聞くようになりました。
- ・職員会議やケース会議において、司会者がファシリテーターの役割を担いながら行うようになり、少しずつ変化しています。
- ・会議で話す内容を事前に決めておき、時間内に終われるように努めています。また、これから話す内容を理解して話し合いができるように導入の説明を意識して行っています。

研修名	ＯＪＴリーダー育成研修 ～人を育てる！職場が変わる！！～
目 的	福祉職場における人材育成において、「職務を通して行う ＯＪＴ」は職場の土台づくりそのものです。「きょうと福祉人材認証制度」においても事業所における「ＯＪＴ 体制の構築」の必要性が取り上げられるなど、ＯＪＴの重要度はますます高くなっています。 この研修では、ＯＪＴにおいて育成チームの要となる ＯＪＴ リーダーにスポットを当て、職場で ＯＪＴ を導入し意図的・計画的・継続的に推進する手法の獲得を目指します。受講者であるリーダーには、実際に職場で対象者を定め、所属長の協力も得ながら自身の取り組みを振り返っていただくという職場実践も含めた「超参加型」研修です。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的立場の職員
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和 6 年 7 月 1 1 日（木）・9 月 1 2 日（木）
開催日数	2 日
定 員	2 4 名
受講人数	2 3 名
申込者数	2 7 名
会 場	京都私学会館

開催日	時 間	テーマ	講 師
7/11 (木)	10:00～16:00	《講義・演習》 ・ Ｏ Ｊ Ｔ とは ・ Ｏ Ｊ Ｔ のためのコミュニケーション（コミュニケーションタイプ） ・ Ｏ Ｊ Ｔ 構築の方法	株式会社スリー・バイ・スリー 代表取締役 勝見 九重 氏
9/12 (木)		《Ｏ Ｊ Ｔ の実践》 ・ 職場実践の共有 ・ Ｏ Ｊ Ｔ のためのコミュニケーション（ほめて育てる）	

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
ＯＪＴ（人）	6	7	3	16
割合	37%	44%	19%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったＯＪＴリーダー育成研修 16 名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自分の思いを相手に伝えるだけで相手の言葉に対して諦めがありましたが、理解しようとしています。なぜその言葉が出たのか向き合い、背景を考えるようになりました。
- ・計画をしないと何も進まないことに気づきました。実行するだけではなく、評価や改善していくことも意識できるようになりました。
- ・自分がほめられ嬉しい気持ちになることを意識するようになり、周りの人への声掛けも変わったと思います。

研修名	福祉職員のためのアンガーマネジメント講座 ～怒りの感情と上手につきあうために～
目 的	人と人との関わり合う福祉職場においては、心に余裕がない時、人間関係がうまくいっていない時など、相手に対してイライラすることがあります。「怒り」は誰もが持っている感情で、それ自体は悪いものではありません。大切なのは、怒りをしっかりコントロールする術を身につけることなのです。 虐待防止対策のひとつともなっている「アンガーマネジメント」を学び、自分の感情と上手につきあうことで、よりよい支援を実践していきましょう。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和7年1月31日（金）
開催日数	1日
定 員	40名
受講人数	13名
申込者数	15名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
1/31 （金）	10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・アンガーマネジメントとは ・「怒り」の感情とは ・アンガーマネジメント実践テクニック ・自分の「怒りの傾向」に合わせた対処法 ・怒りの原因となりやすい6つのコアビリーフ ・アンガーマネジメントを習慣化するために	株式会社ナースハート 代表取締役 一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントコンサルタント 井上 泰世 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
アンガー（人）	2	6	1	9
割合	22%	67%	11%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったアンガーマネジメント講座9名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・本当に苛々する内容なのか等、まず考えるように心がけ、業務に取り組むと苛々の頻度が同場面で少なくなりました。
- ・同じような職種、悩みを抱えていても価値観が違ふことを思い出すようにしています。
- ・怒りを感じた瞬間、大きく深呼吸して6秒をやり過ごす。10レベルの怒りと比べる。この方法でやり過ごせるようになりました。

研修名	心に響く！伝える技術 プレゼンテーション研修 ZOOMオンライン
目 的	アイデアは持っているが、どう伝えればいいかわからない、研修内容を他の職員に伝えたくても、わかりやすい伝え方がわからないのは、そういった伝え方を学んできていないからです。 プレゼンテーションは、企画提案や報告・連絡・相談、伝達研修などを相手に分かりやすく伝え、受け入れてもらうための技術です。 伝え方の基礎知識や工夫、実際のプレゼンテーションを見て、演習を行うことにより、心に響く、伝える技術を学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年6月25日（火）
開催日数	1日
定 員	24名
受講人数	17名
申込者数	17名
会 場	オンラインのため会場なし

開催日	時 間	テーマ	講 師
6/25 （火）	10:00～15:00	《講義・演習》 ・プレゼンテーションの基礎知識 ・プレゼンテーションの種類 ・プレゼンテーションの流れ ・ストーリー作り ・TEDに学ぶプレゼンテーション 《演習》 ・プレゼンテーションの実際」	京都光華女子大学 短期大学部 ライフデザイン学科 教授 森際 孝司 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
プレゼン（人）	1	9	4	14
割合	7%	64%	29%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったプレゼンテーション研修14名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・資料を見直し、伝えることをまとめることで少し自信をもって伝えることができています。
- ・多くの情報を載せるのではなく、最も伝えたい情報ができるだけフォーカスされるように工夫を考えるようになりました。
- ・資料を作成するときに、自分のアウトプットしたものではなく、簡易な図式を入れるなど伝わるかどうかを意識することが増えました。
- ・発表や講演をする際には第三者の目を通すようにしています。

研修名	職員のやる気を引き出す モチベーション・マネジメント
目 的	現在の社会情勢として、働き方改革の推進により、残業の減少や働く職員の生産性向上（限られた時間で高い成果を出すこと）が問われるようになってきています。また、雇用の面では人材確保・定着が課題となっています。生産性を向上させるためには、職員ひとりひとりの『意欲』（やる気）を引き出すことが何よりも大切です。 法人理念の実現に向けて職員の生産性を向上させるために、どのようにすれば職員の働く『意欲』（やる気）を引き出せるのか、その具体的な手法としての『モチベーション・マネジメント』を学びます。そして意欲を持って働ける『働きがい』のある職場づくりが、魅力的な職場につながり、人材確保や離職防止（人材の定着）にもつながるよう実践に活かせる研修を実施します。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的・管理的立場の職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	① 来場・②Z o o m 令和6年8月23日（金） ② 動画（視聴期間） 令和6年9月17日（火）～11月15日（金）
開催日数	1日
定 員	① 来場・②Z o o m 各24名 ② 動画 定員なし
受講人数	① 来場23名、②Z o o m 8名、③動画12名
申込者数	① 来場23名、②Z o o m 8名、③動画12名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
① 来場 ② Zoom 8/23(金)	① 来場 ② Zoom 10:00～ 16:00	《講義・演習》 ・研修転移 ・坂を上げるための2つの力 ・外発的動機と内発的動機 ・キャリア ・ABC理論 ・モチベーションとデモチベーション ・今後の実践プランをつくる	介護老人保健施設 おおやけの里 管理部長 辻 智典 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
モチベ【来場・ZOOM】(人)	3	14	9	26
割合	11%	54%	35%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったモチベーション・マネジメント【来場・ZOOM】26名についての結果。

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
モチベ【動画配信】(人)	1	4	5	10
割合	10%	40%	50%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったモチベーション・マネジメント【動画配信】10名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・自分の考えを変えることで他の人の見え方が変わりました。
- ・目的地というのを意識するようになりました。目的地というその過程としての小目標を自分の中で作って日々仕事をするようにしています。

研修名	福祉職場のよりよい人間関係研修
目 的	「職場の雰囲気が何となくよくない...」「コミュニケーションがうまくいかない」など、職場での人間関係に悩むことがあると思います。 この研修ではチームとは何か、コミュニケーションという仕組みなど人間関係をよりよくしていくためにできること等を学びます。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的立場の職員
協 賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年7月17日（水）
開催日数	1日
定 員	30名
受講人数	23名
申込者数	25名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
7/17 （水）	13:30～ 16:30	《講義・演習》 ・ 職場とは ・ 専門職に求められるもの ・ 目標・チームとは何か ・ コミュニケーションを考える ・ 言語・非言語のコミュニケーション ・ 事例に基づくロールプレイ等	兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人間関係（人）	1	10	5	16
割合	6%	63%	31%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職場のよりよい人間関係研修16名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・ 少しのことでも伝えることで相手から「この前の件・・・」と返答が返ってきたりしています。自分の気持ちも返答がなくてもマイナスイメージが減りました。
- ・ 聞く姿勢を意識して、話を最後まで聞く、質問や聞きたいことはできる限り最後に行うことを意識して聞く事ができています。話したいこと、伝えたいことをコンパクトにまとめ結論から伝えられています。
- ・ 指示をもらう際、確認をとるようになりました。自分の思い違いが思ったよりあることを感じました。
- ・ 各職員から「チームで話したい」という声も上がることも見られ、チームの一体感が出ており、チームで同じ目標・目的に向かっていると感じます。

社会福祉研修事業
専門課題別研修(その他の研修)

研修名	施設長等管理者・リーダーセミナー ＢＣＰ強化と災害対応力向上～災害対応力を強化するための実践的アプローチ～
目 的	災害発生時の事業継続に関する課題に対応するため、ＢＣＰ（事業継続計画）を再確認し、既存のＢＣＰを再評価・改善する方法を学ぶ 【セミナープログラム】 ・ＢＣＰの基本概念と重要性の復習 ・具体的な再評価の手順とポイント ・再評価後のＢＣＰの改善方法・・・など
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する施設長・副施設長・管理者・チームリーダー等
主 催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催日時	令和 7 年 3 月 4 日（火） 9 時 3 0 分～1 1 時 3 0 分
定 員	7 0 名
受講人数	5 0 名
申込者数	5 8 名
会 場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時 間	テーマ	講 師
3/4 (火)	9 : 30～ 11 : 30	《講義・事例解説》 ・ＢＣＰとは ・計画資料の作成方法と視点 ・計画作成の その後の活用と評価 ・風水害対応版ＢＣＰ ・意見交換 ・計画資料の作成方法	佛教大学 専門職キャリアサポートセンター専任講師 後藤 至功 氏

研修直後の受講者のアンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考に ならなかった	合計
管理者セミナー(人)	8	2	0	10
割合	80%	20%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった施設長等管理者・リーダーセミナー10名についての結果。

感想（抜粋）

- ・写真、地図、表を活用した資料の作成を意識していきたいと思います。
- ・災害時に実際に必要とされた物品については、数量も含めて確保したいと思いました。
- ・防災訓練はしていますが、地震、風水害の訓練が必要と改めて思いました。
- ・見直しと訓練を職員と共有して行いたいと思います。

研修名	介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修受講試験のための受験対策講座
目 的	居宅介護支援事業者及び介護保険施設において必要とされている介護支援専門員（ケアマネジャー）養成について、「第27回介護支援専門員実務研修受講試験」の実施が予定されています。当講座は受験を希望する方への受験対策として開催します。
対 象	受験希望者
主 催	京都府社会福祉協議会
共 催	京都社会福祉士会
開催時期	令和6年8月3日（土）、8月24日（土）、9月7日（土）、9月21日（土）
開催日数	4日
定 員	80名
受講人数	60名（4日間延べ人数239名）
会 場	同志社大学

開催日	時 間	テーマ	講 師
8/3 （土）	10:00～ 16:30	・ケアマネジャー試験の全体像の把握 ・介護支援分野の詳細の把握 ・保健医療福祉サービス分野の詳細の把握 ・総復習 ・模擬試験（第4日目）	有限会社いとう総研 取締役 伊東 利洋 氏
8/24 （土）	10:00～ 16:30		
9/7 （土）	10:00～ 16:30		
9/21 （土）	10:00～ 16:30		

介護実習・普及センター事業

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講人数	掲載頁
市民講座					
介護基礎講座	随 時	介護機器展示室の見学 介護技術 福祉用具の活用方法 その他	20～30	61 (4回)	45
介護体験講座	随 時	高齢者疑似体験 車いす・アイマスク体験	20～30	615 (28回)	
	随 時	小学生用高齢者疑似体験セット貸出し	—	29回	
やさしい介護講座	4/19（金）	寝返り、起き上がり・乗り移りの方法と介助	30	26	46
	5/29（水）	もの忘れとは違う「認知症」症状の理解（医学的基礎知識）	50	54	
	6/17（月）	身近な薬との上手な付き合い方	30	25	
	7/25（木）	入浴の効果、入浴の方法と介助	30	15	
	8/21（水）	『食べる』しくみと工夫、食事の方法と介助	30	24	
	10/28（月）	排泄のしくみ、トラブル解消法	30	25	
	11/27（水）	衣服の工夫、着替えの方法と介助	30	16	
	12/12（木）	寝返り、起き上がりの方法と介助	30	13	
	1/24（金）	認知症を知り誰もが希望をもて暮らせる社会について考えよう	30	23	
	2/7（金）	介護保険制度 上手な利用とその相談窓口	30	32	
	2/17（月）	杖・シルバーカー・車いすを使った移動の方法と介助	30	23	
	3/13（木）	口腔ケアを知る～健康寿命を延ばすために～	30	19	
専門職研修					
介護研修（基本）	5/20（月）	腰痛予防と持ち上げない介護	20	19	48
	7/3（木）	正しい排泄ケア	20	18	49
	8/2（金）	入浴と清潔に関する介護技術	20	12	50
	10/25（金）	正しい褥瘡ケア	20	13	51
	3/5（水）	上手な着脱介護のコツ	20	10	52
介護研修（応用）	6/13（木）	ベッド上での不良姿勢と改善策 （ポジショニング）	20	20	53
	11/18（月）	車いす上での不良姿勢と改善策 （シーティング）	20	9	54
	1/14（火）	臥位・座位姿勢 （事例検証）	18	15	55

介護機器普及事業					
事業名	開催	内容		利用数	掲載頁
福祉用具情報提供	通年	福祉用具の情報や使用技術に関する情報を提供する	展示点数	610	56
			見学者数	373	
福祉機器シミュレーション事業	通年	専門職者に限り、福祉用具を一定期間貸出し、使用評価を得る		46	
介護・福祉用具の相談事業	通年	相談員を常時配置し、市民等からの電話や面接による相談を行う。各機関との連携を図る		987	
介護ロボット普及推進事業	11/12～ 11/29	介護ロボット 展示会	見学者数	113	57

広報啓発事業		
インターネットによる情報発信	通年	本センターのホームページ及び京・福祉の研修情報ネットにおいて、講座・研修に関する周知を行う
講座案内パンフレットの発行	4～5 回／年	市民一般・団体等に広く講座開催を周知することを目的として発行する
介護実習・普及センター事業報告書	1回／年	年度毎に事業報告書を作成する
介護実習普及センター連絡会議		
会議名	開催	会場
中日本ブロック介護実習・普及センター等関係機関連絡会議	—	—

介護実習普及センター事業
市民講座

介護基礎講座	
目 的	希望テーマを選んで、介護の一般知識や技術を学ぶ
内 容	①介護機器展示室の見学 ②介護技術 ③福祉用具の活用方法 ④その他
開催日	随時
対 象	どなたでも
定 員	30名程度まで
講 師	京都市社会福祉協議会 介護実習普及センター職員

	日 付	団体名	内 容	人数
1	6/21	まさき工務店	①介護機器展示室の見学	3
2	6/27	舞鶴市立若浦中学校	①介護機器展示室の見学 ③福祉用具の活用方法	4
3	12/4	中国福祉用具施設	①介護機器展示室の見学	28
4	8/19	公立学校共済組合	②介護技術	26
合 計				61

介護体験講座	
目 的	希望テーマを選んで、介護の一般知識や技術を学ぶ
内 容	以下の内容から選ぶ ①高齢者疑似体験講座（大人用） ②車いす体験 ③高齢者疑似体験セットの貸出
開催日	随時
対 象	どなたでも
定 員	30名程度まで（③は定員設定なし）
講 師	京都市社会福祉協議会 介護実習普及センター職員

	団体名	内 容	人数
1	福祉施設・事業所 11 件	③高齢者疑似体験セットの貸出	227
2	一般企業 9 件	③高齢者疑似体験セットの貸出	109
3	医療関係機関 5 件	③高齢者疑似体験セットの貸出	149
4	教育機関 3 件	③高齢者疑似体験セットの貸出	130
合 計			615

高齢者疑似体験（小学生用）利用状況	
目 的	加齢による身体的な変化（筋力、視力、聴力などの低下）を知り、高齢者の気持ちや介護の方法、コミュニケーション取り方を体験的に学ぶ
対象者	京都市内の介護・福祉・医療関係機関および教育機関

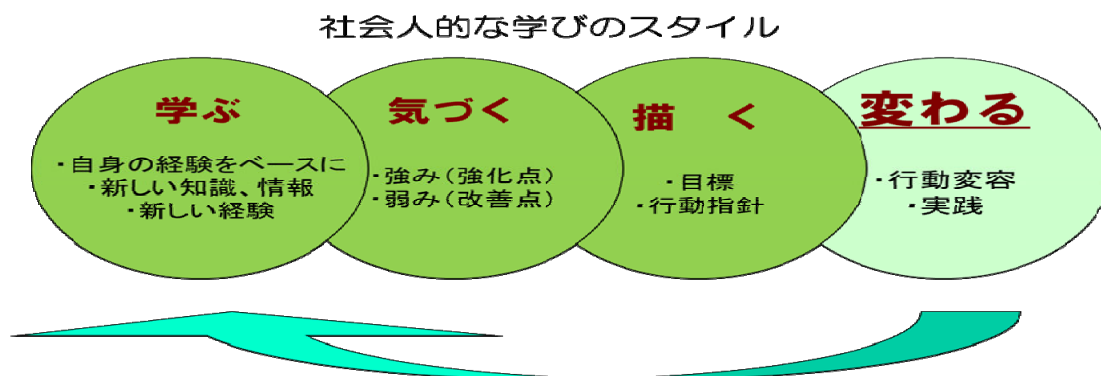
	日付	団体名	10	9/18	下京区社協	20	11/18	勸修小学校
1	5/20	砂川小学校	11	9/24	向島秀蓮小中学校	21	12/13	上京区社協
2	5/28	開晴小学校	12	9/27	ヘルパーステーションごりき	22	1/7	光華小学校
3	6/7	桂川小学校	13	9/30	嵯峨小学校	23	1/14	高倉小学校
4	6/24	七条第三小学校	14	10/16	中京区社協	24	1/17	向島秀蓮小中学校
5	7/1	桂東小学校	15	10/24	洛和ホームライフみささぎ	25	2/14	朱雀第一小学校
6	7/9	東九条地域包括	16	10/29	高齢者サポート協会	26	2/21	老健いわやの里
7	7/12	西京北部地域包括	17	10/31	老健いわやの里	27	2/21	深草・南部地域包括
8	7/26	深草・北部地域包括	18	11/7	深草・南部地域包括	28	3/3	朱雀第一小学校
9	9/3	エクセレント修学院	19	11/13	京都福祉サービス協会特養西七条	29	3/27	京都福祉サービス協会醍醐事務所

やさしい介護講座	
目 的	設定されたテーマを通して、介護の基本を学ぶ
対 象	一般の方（福祉現場で勤務する者及び福祉系有資格者を除く）
定 員	30名または50名
会 場	ひと・まち交流館 京都

	日程	時間	テ ー マ(内容)	講師	申込者数	受講者数
1	4/19	13:30 ～ 15:30	寝返り、起き上がり・乗移りの方法と介助	ぐりっど右京訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 氏 （作業療法士）	32	26
2	5/29	13:30 ～ 15:30	もの忘れとは違う「認知症」 症状の理解（医学的基礎知識）	三幸会 京都北山病院 院長 澤田 親男 氏	71	54
3	6/17	13:30 ～ 15:30	身近な薬との上手な付き合い方	メディカプラン京都 川幡 智絵 氏 （薬剤師）	33	25
4	7/25	13:30 ～ 15:30	入浴の効果、入浴の方法と介助	ぐりっど右京訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 氏 （作業療法士）	16	15
5	8/21	13:30 ～ 15:30	『食べる』しくみと工夫、食事の方法と介助	京都栄養医療専門学校 笹井 めぐみ 氏 （管理栄養士）	26	24
6	10/28	13:30 ～ 15:30	排泄のしくみ、トラブル解消法	排泄用具の情報館むつき庵 平田 亮子 氏 大坪 麻理 氏	31	25
7	11/27	13:30 ～ 15:30	衣服の工夫、着替えの方法と介助	訪問看護ステーション虹 西尾 希実重 氏（看護師）	20	16
8	12/12	13:30 ～ 15:30	寝返り、起き上がりの方法と介助	ぐりっど右京訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 氏 （作業療法士）	16	13
9	1/24	13:30 ～ 15:30	認知症を知り、誰もが希望をもって暮らせる社会について考えよう	橋本 千恵 氏 （京都市認知症介護指導者）	29	23
10	2/7	13:30 ～ 15:30	介護保険制度 上手な利用とその相談窓口	御池地域包括支援センター 立見 和正 氏 （センター長） 平山 三奈 氏 （副センター長）	39	32
11	2/17	13:30 ～ 15:30	杖・シルバーカー・車いすを使った移動の方法と介助	京都障害者福祉センター 奥村 栄浩 氏 （介護福祉士）	27	23
12	3/13	13:30 ～ 15:30	口腔ケアを知る ～健康寿命を延ばすために～	音羽野瀬歯科医院 野瀬 将洋 氏 （歯科医師）	29	19
合計					369	295

今年度の状況と研修実施後の行動変容についてのアンケート結果（3ヶ月後アンケート結果）

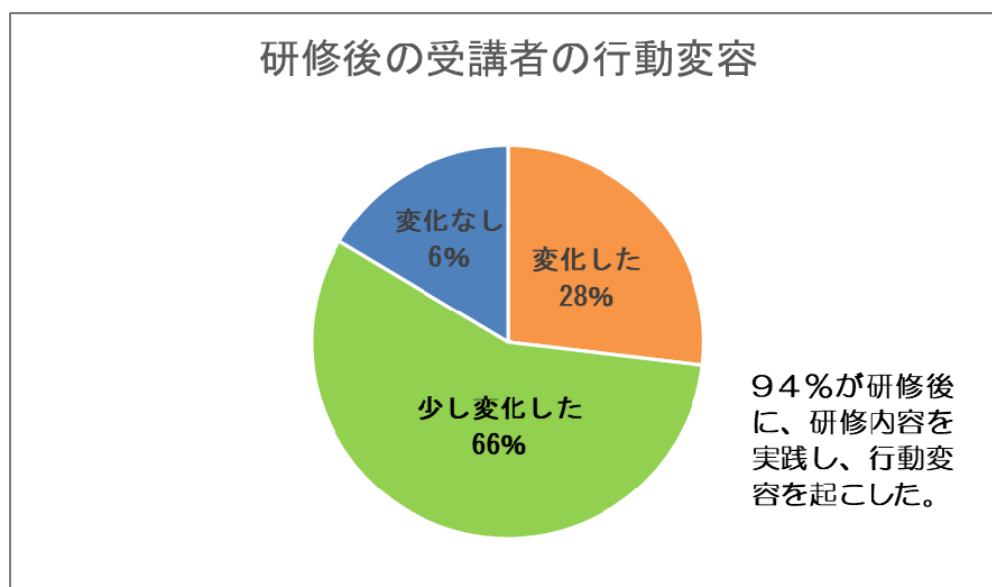
研修は、学習したことを受講後に実践することで、業務に活かすことができ、サービスの質の向上等に役立てることができます。



介護研修事業において、研修実施後に受講者が研修内容を実践し、どのように自らの行動を変化（行動変容）させたかについて、研修実施3ヶ月後にアンケートを実施。

令和6年度 研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート全体集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	返信数
合計	22	51	5	78
割合	28%	66%	6%	100%



研修名	介護研修 基本① 「腰痛予防と持ち上げない介護」
目 的	ベッド上の仰臥位で寝ている被介護者の水平移動時に、介助者の腰痛を予防する移乗介助を理解する。 また、被介護者の移乗時に福祉用具を活用した、移動・移乗介助方法を学び、スキン・ケアを予防することができる。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験３年未満の方）
開催時期	令和６年５月２０日（月）
開催日数	１日
定 員	２０名
受講人数	１９名
申込者数	２０名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
5/20 (月)	13:30 ～ 16:00	《講義》 ・ノーリフティングとは ・人が移動する際の質量（重心）中心と支持面の関係 ・支持基底面と重心・圧力中心について ・脊椎終板骨折と椎間板損傷のメカニズム ・スキンケアの発生と再発の予防 《実技》 ・福祉用具を用いた水平移乗 ・ボートの原理	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材研修センター 研修担当部長 神内 昭次 氏（理学療法士）

研修後の受講者の行動変容〔３ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本①）（人）	０	８	１	９
割合	０％	８９％	１１％	１００％

※アンケートを実施し、返信のあった腰痛予防と持ち上げない介護９名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・研修で学んだことを共有し職員が負担にならないように、もう一度ケアの見直しをしました。また、できるところは極力ご自身で行っていただけるよう再度職員とも声かけし統一しました。
- ・ボディメカニクスを意識し、スライド移動を意識するようになりました。
- ・人の重心と基底面との関係など知らなかったことを学べ、立位やベッド上の移動など自分の中で意識が変わりました。
- ・腰を痛めないような体の使い方を意識してできるようになりました。また、利用者さんにも負担がかからないように考えて介護しています。

研修名	介護研修 基本②「正しい排せつケア」
目 的	人間にとって排泄の重要性を医療的な視点で理解を深め、おむつ・尿取りパットの種類・構造・メリット・デメリットを理解したうえで、正しいおむつの装着方法を学ぶ。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験3年未満の方）
開催時期	令和6年7月3日（水）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	18名
申込者数	20名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
7/3 (水)	10:00～ 16:00	《講義》 ・排泄ケアの特徴 ・排泄と排便のメカニズム ・排泄障害から生じる問題 ・排尿日誌 ・尿は出ないと大変！出ていれば安心？ 《実技》 ・尿が出にくい現象に至るまでの原因 ・「おむつ」の概念 ・おむつの種類の特徴の説明 ・おむつ+パッドの給水実験 ・おむつの装着体験 ・正しい装着方法を学ぶ	【午前】 NPO法人 快適な排尿をめざす全国ネットの会 田中 悦子 氏 【午後】 はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館むつき庵 副所長 熊井 利将 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本②）（人）	3	9	2	14
割合	22%	64%	14%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった腰痛予防と持ち上げない介護14名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・ゆとりのあるオムツの着用方法を実践できるようになりました。パットずれによる失禁がなくなり、常に正しいパットの当て方ができるようになりました。
- ・受講後はこちら側の都合ばかりにとらわれずに、利用者様の習慣や生活様式も考慮して排泄ケアをするように心がけています。
- ・排泄ケアで一番重要なことはアセスメントだと改めて考えさせられました。まずは一人一人に見合った排泄方法を見直し、オムツ類の選定や手技は、個人差にもよりますが、それらを踏まえた上で実践し、快適な排泄環境をどのように整えていくかが重要だと確認できました。
- ・汚染がある為、オムツ+巻きパット+横あてパットをしていた男性入居者を今回モデルケースとして、リハパン+パットに変更してみました。まだ経過観察中ですが、パット外しがなくなりました。個人的に今回学んだことが生かせたと思います。

研修名	介護研修 基本③ 「入浴と清潔に関する介護技術」
目 的	清潔支援に必要な基本的な知識と技術を学び、介助を受ける側の気持ちを理解する。
対 象	市内の社会福祉施設・団体に勤務する介護職員
開催時期	令和6年8月2日（金）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	12名
申込者数	12名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
8/2 (金)	13:30 ~ 16:00	《講義》 ・入浴介助の目的 ・入浴前の事前準備と注意点 ・高齢者の皮膚の構造と注意点 ・清拭、足浴、手浴の効果と手順 ・洗髪介助のポイント 《実技》 ・洗髪支援に必要な物品の作り方 ・足浴のデモンストレーション ・手浴の準備と上肢の清拭	一般社団法人京都府介護福祉士会 副会長 木村 美由紀 氏 京都府介護福祉士会 中村 悟 氏

研修後の受講者の行動変容〔3月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本③）（人）	6	2	1	9
割合	67%	22%	11%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった入浴と清潔に関する介護技術9名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・清拭や入浴の際には、どの拭き方で拭くとタオルが冷めにくいのか、また、利用者の尊厳をより重要視するようになりました。そして、清拭など実施後の対応にも迅速な対応が出来るようになりました。
- ・特筆すべき事は、高齢者の皮膚に関する知識を身に付けられた事だと思います。自分の中にあった感覚と現実の差にとっても驚きました。表皮剥離などの事故を発生させる前に、今回の研修を受講できて良かったと思います。
- ・清拭をする際に、少し熱めのタオルを作り、利用者にあてています。また、二度拭きも実施し、熱が逃げないように心掛けています。
- ・実務の中で一番活かしていると感じるのはタオルの使用と畳み方、1つのタオルでより多くの面を使用でき、無駄なタオルの消費が減りました。何より素早く行えるため、入居者の待つ時間を少なくでき、嬉しく思います。
- ・洗身時、洗う方向や順番を意識するようになりました。また、体を拭く際、ゴシゴシ擦るのではなく、包み込んで押すように拭くようにしました。

研修名	介護研修 基本④「正しい褥瘡ケア」
目 的	摩擦や栄養状態などの発生要因を理解し「褥瘡発生のメカニズム」「褥瘡予防ケア」などの知識習得を目指す。 また、褥瘡予防に必要な技術などを学ぶことによって、正しい褥瘡ケアの理解を深めることができる。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員
開催時期	令和6年10月25日（金）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	13名
申込者数	13名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
10/25 （金）	13:30 ～ 16:00	《講義》 「褥瘡とは」 「リスクアセスメント」 「褥瘡予防ケア」 《実技》 圧力・ずれの排除	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 伊藤 貢江 氏

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本④）（人）	5	5	0	10
割合	50%	50%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった正しい褥瘡ケア10名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・圧力が分散するよう心がけるようになりクッションの使い方も隙間をなるべくなくすように使い方も変化しました。
- ・受講前までは自身で動かれ転倒リスクの高い生活者への視点やアプローチが多かったが、寝返りができない人、除圧できない人の適時の除圧、日常的な安楽な姿勢を保つことへの視点も普段から考えられるようになってきたと感じます。
- ・体位交換やベッドギャッジアップの際に意識して体位交換などを行うようになりました。
- ・クッションの置き方や乾燥肌にローションを入浴後に塗布しています。利用者の状態に合わせクッションを選び使用しています。ずれやねじれがないか意識し介助しています。

研修名	介護研修 基本⑤ 「上手な着脱介助のコツ」
目 的	着脱介助は、様々な身体状態や衣服の材質が異なることで、介助者へ痛みやストレスを与えることがあり、身体介助のなかで難しい内容である。 この研修で、スムーズな着脱介助や正しい手順やポイントを習得することを目指す。
対 象	市内社会福祉施設・団体の介護職員
開催時期	令和7年3月5日（水）
開催日数	1日
定 員	20名
受講人数	10名
申込者数	12名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
3/5 (水)	13:30 ～ 16:00	《講義》 「人の自然な動きと運動学」 「着脱介助の注意点」 「着衣の材質と特徴」 「正しい着脱順」 《実技》 「片麻痺のある方の着脱介助」	一般社団法人京都府介護福祉士会 副会長 木村 美由紀 氏

研修直後の受講者のアンケート集計

	変化した	少し変化した	へんかなし	合計
介護研修（基本⑤）（人）	4	4	1	9
割合	44%	45%	11%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった上手な着脱介助のコツ9名についての結果。

受講者の感想（抜粋）

- ・拘縮のきつい方の着替えができるようになりました。（やり方がわかった）また、お風呂上がりのズボンを床につけずにはかせることができるようになりました。
- ・初めは服の生地など気にしないことが多かったが、お風呂前に着替えの準備をするときに、どういう生地なのか、この服は本人が着ても着心地悪くないかなど考えるようになりました。腕などをさすると筋肉が和らぐことを知らなかったですが、話を聞いて職場でするようになりました。
- ・ささいな衣服のシワも利用者には気になることがわかり、更衣終了後に再度キレイになっているか確認するようになりました。
- ・上衣の着脱の際、肩関節の可動域が狭い方への介助がスムーズになりました。

研修名	介護研修 応用①「ベッド上での不良姿勢と改善策（ポジショニング）」
目 的	長時間ベッド上で身体を動かさない状況による、心身の変化による影響やベッド上でのポジショニングの重要性等の理解を深める。 また、ベッド上で快適で安定した姿勢を理解し、実践的な実技によって正しいポジショニング方法を習得する。
対 象	市内社会福祉施設・団体の介護職員（概ね経験３年以上の方等）
開催時期	令和６年６月１３日（木）
開催日数	１日
定 員	２０名
受講人数	２０名
申込者数	２０名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
6/13 (木)	10:00 ～ 16:00	《講義・実技》 「ポジショニングとは」 「褥瘡とは」 「皮膚に係る圧とズレ」 「高齢者の姿勢の特徴」 「褥瘡予防ケアの介助方法」 「ベッド上における ポジショニングの実際」(実技)	社会福祉法人京都福祉サービス協会 人材研修センター 研修担当部長 神内 昭次 氏（理学療法士）

研修後の受講者の行動変容〔３ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（応用①）（人）	2	12	0	14
割合	14%	86%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったベッド上での不良姿勢と改善策（ポジショニング）１４名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・臥床時、何気なくクッションを入れていたが、わからないなりにポジショニングを考えてクッションを置くようになりました。再度、研修を受けさせていただきもう少し詳しく勉強したいと思います。
- ・利用者１人１人に対して創意・工夫し、安楽な姿勢を心がける意識が強くなりました。
- ・利用者のポジショニングの大切さと必要性を改めて勉強することができました。個々に合わせたポジショニングをしっかりと行い、また施設内においてフィードバックできればと思います。
- ・受講前は褥瘡の好発部位など褥瘡の基礎的な知識は知っていましたが、受講後はどのようにクッションを使いどのように除圧をするかと具体的に知ることができ、現場での実践に生かすことができていると思います。
- ・利用者にあったマットレスやポジショニングクッションを選択して、使用できるようになりました。

研修名	介護研修 応用②「車いす上での不良姿勢と改善策（シーティング）」
目 的	車いすの座位姿勢保持の際、傾いた姿勢での食事を摂取するリスクや、正しくない座位姿勢が及ぼす、臀部褥瘡、誤嚥性肺炎の誘発など、身体に現れる影響と予防的な知識と実践的な技術を習得する。 また、シーティングの基本、車いすを快適に座るための工夫等の介護現場に役立つ方法を学ぶ。
対 象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験３年以上の方）
開催時期	令和６年１１月１８日（月）
開催日数	１日
定 員	２０名
受講人数	７名
申込者数	９名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時 間	テーマ	講 師
11/18 （月）	10:00 ～ 16:00	《講義・実技》 ・シーティング（座位保持）とは ・対象者にあった車いすや 椅子の選定と調整 ・座位修正介助 ・車いす上における シーティングの実際（実技）	社会福祉法人京都福祉サービス協会 人材研修センター 研修担当部長 神内 昭次 氏（理学療法士）

研修後の受講者の行動変容〔３ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（応用②）（人）	2	1	0	3
割合	67%	33%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった車いす上での不良姿勢と改善策（シーティング）３名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・ベッド・車イス間の移乗や車イスでの座り直し、シーティングの内部研修を行いました。
座位姿勢は特に注意して見るようになりました。
- ・車椅子の方への環境面を見て、気づきについて共有することができました。
- ・姿勢やシーティングの内部研修を定期的に行っていきたいです。

研 修 名	介護研修 ステップアップ 「臥位・座位姿勢 事例検証」
目 的	事前課題として提出された事例を基に、最適な姿勢について検討・検証し、現場で直面する様々なケーススタディを通じて実践力を養い、ポジショニング・移動・移乗介助などのケアを横断的に検討・検証し、正しいポジショニング姿勢を考える。
対 象	都市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験3年以上の方）
開催時期	令和7年1月14日（火）
開催日数	1日
定 員	18名
受講人数	15名
申込者数	15名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー

開催日	時間	テーマ	講師
1/14 (火)	10:00～ 16:00	《講義》 - 姿勢と環境のアセスメント - ポジショニングのプラン - 体位変換のプラン - 移動・移乗ケアのプラン - シーティングのプラン - 食事・排泄・入浴・趣味活動等のケアとの関連性 《実技》 - 事例分析 (課題となる姿勢や動作を分析する) - 最適姿勢の検討 (各事例の最適な姿勢を考える) - 検証 (検討した姿勢を実際に試行し、効果や課題を検証する)	社会福祉法人京都福祉サービス協会 人材研修センター 研修担当部長 神内 昭次 氏（理学療法士）

研修後の受講者の行動変容〔3ヶ月後アンケート集計〕

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（ステップアップ）（人）	0	10	0	10
割合	0%	100%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった臥位・座位姿勢（事例検証）10名についての結果。

行動変容内容（抜粋）

- ・利用者視点でのクッションの当たり方を考えられるようになり、クッションが当たっていない部分を意識してカバーできるようになりました。利用者家族からも好評価をいただきました。
- ・長時間、車椅子に座っている利用者は2時間に1回、車椅子の背もたれに何時間も密着した状態をさけ、空気ぬきなど他の職員にも声かけしています。また、立位が難しい利用者にもスライド移動などの方法も考え、理学療法士とも相談を行っています。
- ・臥床時どこにクッションを入れると楽に感じるかを体感できたので、目の前の利用者ならどこにいらすと負担が少ないかを考えるようになりました。

令和 6 年度 介護機器相談事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
見学者数	11	14	17	16	11	14	33	133	24	33	36	31	373
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
相談件数	90	107	65	53	36	50	88	174	70	117	80	57	987
来 所	11	14	17	16	11	14	33	133	24	33	36	31	373
T E L	32	39	23	21	18	23	29	24	21	55	25	18	328
メ ー ル	35	41	16	13	5	10	24	17	18	26	17	8	230
F A X	12	13	9	3	2	3	2	0	7	3	2	0	56

【相談項目】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
福祉用具	23	30	20	20	24	28	42	127	21	30	38	49	452
販 売 店	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
制 度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住宅改修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修・講座	67	76	45	33	12	22	46	45	49	87	41	7	530
そ の 他	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	4

【相談処理方法】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
問 合 せ	87	106	65	53	36	49	88	173	69	116	80	55	977
助 言	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
情報提供	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	6
他機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3

【行政区別相談者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
北 区	6	9	3	2	0	2	4	3	3	8	3	1	44
上 京 区	11	5	0	2	2	1	3	4	5	6	5	3	47
左 京 区	13	8	6	2	4	3	10	28	0	11	2	3	90
中 京 区	2	6	1	1	2	0	6	8	4	7	5	6	48
東 山 区	1	3	3	1	0	1	2	2	4	2	2	1	22
山 科 区	9	9	12	5	4	10	28	17	18	14	11	14	151
下 京 区	8	12	7	10	3	7	9	21	5	9	10	5	106
南 区	1	3	4	1	1	1	2	4	4	1	0	1	23
右 京 区	8	5	8	6	9	7	3	2	2	14	9	4	77
西 京 区	5	19	5	7	0	5	7	7	8	10	9	2	84
伏 見 区	15	21	11	13	5	9	8	13	8	24	17	11	155
市 外	4	5	5	2	3	2	1	3	4	1	2	2	34
不 明	7	2	0	1	3	2	5	62	5	10	5	4	106
合 計	90	107	65	53	36	50	88	174	70	117	80	57	987

【介護機器シミュレーション事業】

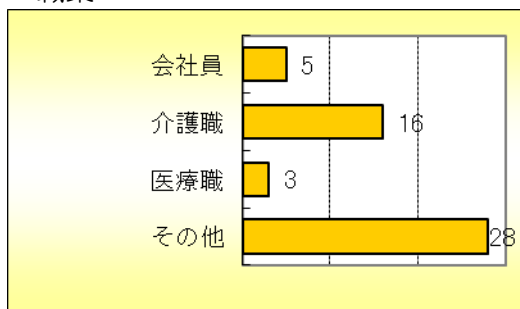
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
貸出件数	3	7	2	4	1	2	6	3	3	4	5	6	46

展示点数 610 点 相談者数 987 件 見学者数 373 人 介護機器シミュレーション事業 46 件

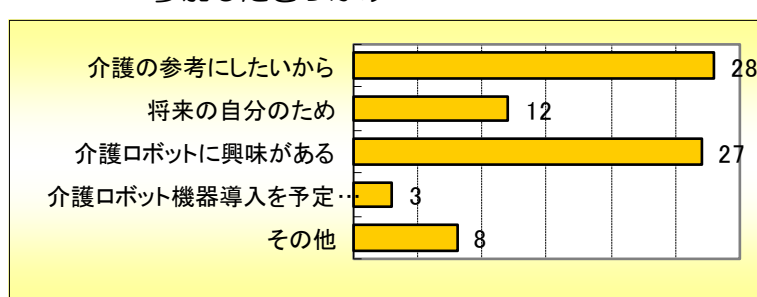
介護ロボット展示会 ～ ロボットで変わる介護のカタチ ～	
目 的	高齢者の自立支援や介護者の負担軽減等を図るため、介護に役立つ様々な介護ロボットの体験ができる展示会を期間限定で開催し、介護ロボットの機能や役割などの理解を深めるとともに、京都市内の介護ロボット普及を推進する。
対 象	特に指定なし
開催時期	介護ロボット展示会 11月12日（火）～11月29日（金）
開催日数	13日間
見学者数	113名
体験者数	57名
会 場	ひと・まち交流館 京都 福祉用具展示コーナー
展示機種	移乗介護ロボット：SASUKE（非装着型）/マッスル株式会社 移乗サポートロボット：Hug/株式会社F U J I 移乗介護アシストスーツ：J-PAS fleairy（装着型）/(株)ジェイテクト 見守りセンサー：見守りライフ/トーテックアメニティ株式会社 BCライフ/株式会社F U J I

来場者アンケート集計

■職業



■参加したきっかけ



■体験しての感想

とても 使いやすかった	使いやすかった	使いにくかった	無回答	合計
17	23	0	17	57
30%	40%	0%	30%	100%

認知症介護実践研修

研修名	京都市認知症介護実践者研修
目 的	本人主体の介護を行い、生活の質の向上を図るとともに、行動・心理症状を予防できるよう、認知症介護の理念、知識、技術を修得するとともに、地域の認知症ケアの質向上に関与することができるようになることを目的とする。
目 標	《講義・演習》 ・認知症ケアの基本的視点、理念及び倫理、認知症の人の意思決定支援のあり方を理解する。 ・中核症状及び行動・心理症状が生じる行動背景を理解したうえで、本人が持つ能力に応じた環境づくりやコミュニケーションを実践し、チームで支援する。 ・認知症の人の権利擁護や在宅で介護する家族に必要な支援方法を展開することと、社会資源の開発及び活用を通じて、認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための取組ができる。 ・研修における学習成果を踏まえ、自身の認知症ケアを実践・展開することによる気づきや課題を明らかにし、取り組みの方向性を他者と検討・共有することで、知識の活用に関する幅広い視点を獲得。 《実習》 本研修の総合的学習として、認知症の人や家族のニーズを明らかにするため、適切なアセスメント及びケアの実践を通して、実践者としての役割の理解を深め、その技能を磨く。
対 象	京都市内の介護保険施設・事業所等で認知症介護に携わる介護職員 身体介護及び認知症介護に関する基本的知識・技術を修得し、かつ介護現場経験が2年以上ある者
開催時期	①（第1回）令和6年 5月17日（金）～令和6年 7月10日（水） ②（第2回）令和6年 6月25日（火）～令和6年 8月15日（木） ③（第3回）令和6年10月23日（水）～令和6年12月19日（木） ④（第4回）令和7年 1月 9日（木）～令和7年 3月 3日（月）
開催日数	講義・演習6日間、職場実習4週間
定 員	280名
受講人数	266名
申込人数	335名
会 場	講義：ひと・まち交流館 京都 実習：受講者所属施設・事業所
講 師	京都市認知症介護指導者

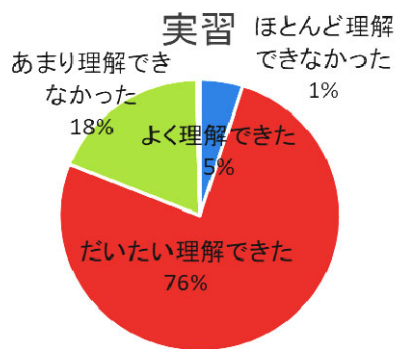
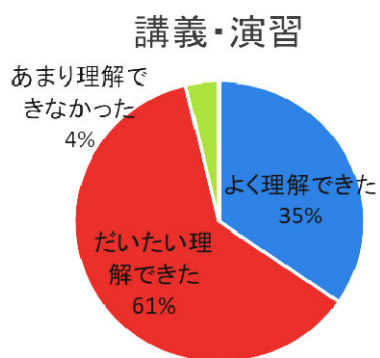
	開催日	時間	科目	講師（所属）
1 日 目	① 5月17日（金）	9:30～9:40	オリエンテーション	今村 和之氏（社会福祉研修・介護実習普及センター） 新保 英理子氏（社会福祉研修・介護実習普及センター）
	② 6月25日（火）	9:40～12:50	認知症ケアの理念、倫理と意思決定支援	澤田 卓氏（介護老人保健施設博寿苑）
	③ 10月23日（水）	13:50～17:30	生活支援のためのケアの演習 1-①	木村 悠紀氏（介護老人保健施設おおよけの里）
	④ 7年1月9日（木）			
2 日 目	① 5月22日（水） ② 7月2日（火） ③ 10月30日（水） ④ 7年1月17日（金）	9:30～9:40	学習成果の課題について	中井 功二氏（特別養護老人ホーム洛東園）
		9:40～10:50	生活支援のためのケアの演習 1-②	中井 功二氏（特別養護老人ホーム洛東園）
		11:00～12:20	地域資源の理解とケアへの活用	橋本 千恵氏（京都市認知症介護指導者）
		13:20～14:20	QOL を高める活動と評価の観点	小倉 千明氏（介護老人保健施設おおよけの里）
		14:30～15:50	家族介護者の理解と支援方法	平島 みどり氏（京都福祉サービス協会人事部）
		16:00～17:30	権利擁護の視点に基づく支援	長澤 香苗氏（介護老人保健施設おおよけの里）

3 日 目	① 6 月 4 日 (火) ② 7 月 12 日 (金) ③ 11 月 13 日 (水) ④ 7 年 1 月 29 日 (水)	9:30～ 10:20	学習成果の実践展開と共有	中村 悟氏(介護老人保健施設おおやけの里)
		10:25～ 15:25	生活支援のためのケアの演習 2	前原 ひろみ氏 (ケアサポートセンター鷹峯)
		15:30～ 17:30	アセスメントとケアの実践の基本 1	中村 悟氏(介護老人保健施設おおやけの里)
4 日 目	① 6 月 12 日 (水) ② 7 月 19 日 (金) ③ 11 月 22 日 (金) ④ 7 年 2 月 4 日 (火)	10:00～ 13:00	アセスメントとケアの実践の基本 2	辻 智典氏 (介護老人保健施設おおやけの里) 岩崎 由香里氏 (小規模多機能かたぎはら)
		13:30～ 14:30	職場実習の課題設定	長澤 香苗氏 (介護老人保健施設おおやけの里) 辻 智典氏(介護老人保健施設おおやけの里)
		14:30～ 17:30	職場実習オリエンテーション 職場実習の課題設定(ワーク)	今村 和之氏(社会福祉研修・介護実習普及センター) 新保 英理子氏(社会福祉研修・介護実習普及センター) 京都市認知症介護指導者
職 場 実 習	① 6 月 13 日 (木) ～ 7 月 9 日 (火) ③ 11 月 23 日 (土) ～ 12 月 18 日 (水) ② 7 月 20 日 (土) ～ 8 月 14 日 (水) ④ 7 年 2 月 5 日 (水) ～ 3 月 2 日 (日)			
5 日 目	① 6 月 27 日 (木) ② 8 月 1 日 (木) ③ 12 月 5 日 (木) ④ 7 年 2 月 20 日 (木)	14:00～ 17:00	職場実習フォロー	京都市認知症介護指導者
6 日 目	① 7 月 10 日 (水) ② 8 月 15 日 (木) ③ 12 月 19 日 (木) ④ 7 年 3 月 3 日 (月)	10:00～ 13:00	職場実習評価	京都市認知症介護指導者
職場実習				
実習先	受講者所属施設・事業所			
実習目的	本研修の総合学習として、認知症の人や家族のニーズへの適切なアセスメント及びケアの実践をとおして、認知症の人の生活支援に関する目標設定、実践計画およびケアの実践を展開できる。			
実習目標	・研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズをアセスメントできる。 ・認知症の人の生活の質の向上を目的にした実践計画を遂行できる。 ・実践計画をもとに各職場の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践ができる。			
実習内容	【1 週目～2 週目】 所属の職場・本人・家族への説明と同意 再アセスメントの実施、センター方式シートの作成と活用、実習ワークシートと実践計画書の作成 【3 週目】 実践計画書に基づきケアを実践 (計画評価) 【4 週目】 実践内容の整理、評価、報告資料の作成			
職場実習フォロー				
目 的	研修内容の実効性を高めるために実習の進捗状況を報告し、実習を進める上での課題と今後の方針を決定する。			
職場実習評価				
目 的	アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価分析し、今後の課題を明確にすることができる。			
目 標	・実施した実践計画を整理し、他者に伝えることができる。 ・認知症の人にとって有益な実践計画であったか客観的に評価し助言することができる。 ・結果を分析し、今後の課題を明確にすることができる。			

【科目の到達目標に対する自己評価】

科目の到達目標ごとに自己評価の段階別回答数を集計し、受講者全体としての理解度を示した。

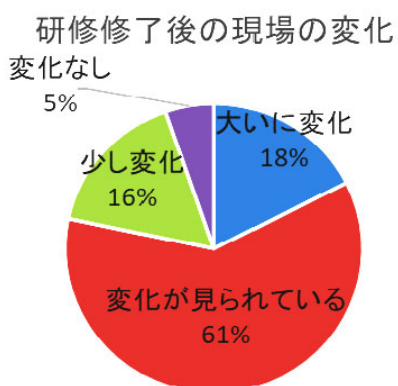
評価基準		よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	ほとんど理解できなかった
講義・演習	到達目標数：27項目 回答のべ人数：6970人	2414	4292	258	6
	割合 (%)	35%	61%	4%	0%
実習	到達目標数：3項目 回答のべ人数：786人	39	599	145	3
	割合 (%)	5%	76%	18%	1%



【研修受講効果】

管理者からみた研修終了後の現場の変化

評価基準	大いに变化あり	変化が見られている	少し変化がみられる	ほとんど変化なし
回答人数：263人	46	160	43	14
割合 (%)	18%	61%	16%	5%



研修名	京都市認知症介護実践リーダー研修
目 的	事業所全体で認知症について理解し、本人主体の介護を行い、生活の質の向上を図るとともに、B P S Dを予防できるチームケアを実施できる体制を構築するための知識・技術の習得と地域の認知症施策の中で様々な役割を担うことができるようになることを目的とする。
目 標	《講義・演習・実習》 ・認知症の病態、発症要因、発症メカニズム、最新の薬物治療に関する専門かつ最新の知識の修得、認知症に関する最新の施策動向及び各地域における施策の実施状況を理解する。 ・チームの方向性を明確にし、ケア方法を共有化する方法を習得し、それらのチームマネジメント手法を認知症ケアにおいて展開する。 ・倫理に関する考え方や判断、認知症に伴う行動・心理症状への介護、食事、排泄、入浴等の基本的な生活行為への支援、権利擁護並びに家族支援に関する教育及び指導方法を理解する。
対 象	京都市内の介護保険施設・事業所等で認知症介護に携わる介護職員 介護現場経験が5年以上あり、施設・事業所等においてケアチームのリーダー（リーダーになることが予定される者を含む）かつ、認知症介護実践者研修もしくは旧認知症介護実務者研修（基礎課程）を修了し1年以上経過している者
開催時期	令和6年8月22日（木）～令和6年10月17日（木）
開催日数	講義・演習8日間、職場実習4週間
定 員	30名
受講人数	30名
申込人数	53名
会 場	講義：ひと・まち交流館 京都 実習：受講者所属施設・事業所
講 師	京都市認知症介護指導者

	開催日	時間	科目	講師(所属)
1 日 目	8月22日（木）	9:30～ 9:45	オリエンテーション	今村 和之氏（社会福祉研修・介護実習普及センター） 新保 英理子氏（社会福祉研修・介護実習普及センター）
		9:45～ 10:45	認知症介護実践リーダー研修 の理解	辻 智典氏（介護老人保健施設おおやけの里）
		10:45～ 12:45	チームケアを構築するリーダ ーの役割Ⅰ	辻 智典氏（介護老人保健施設おおやけの里）
		13:45～ 17:00	認知症の専門的理解	辻 智典氏（介護老人保健施設おおやけの里）
2 日 目	8月27日（火）	9:30～ 11:50	チームケアを構築するリーダ ーの役割Ⅱ	澤田 卓氏（介護老人保健施設博寿苑）
		12:50～ 15:00	ケアカンファレンスの技法と 実践	前原 ひろみ氏（ケアサポートセンター鷹峯）
		15:10～ 17:30	職場内教育の基本視点Ⅰ	中村 悟氏（介護老人保健施設おおやけの里）
3 日 目	9月4日（水）	9:30～ 13:00	認知症ケアにおけるチームア プローチの理論と方法	中井 功二氏（特別養護老人ホーム洛東園）
		14:00～ 16:10	職場内教育の基本視点Ⅱ	中村 悟氏（介護老人保健施設おおやけの里）
		16:20～ 17:30	職場実習の課題設定（Ⅰ）	宮本 路加氏（高齢者福祉総合施設ももやま）
4 日 目	9月10日（火）	9:30～ 11:50	職場内教育（O J T）の方法 の理解Ⅰ	辻 智典氏（介護老人保健施設おおやけの里）
		12:50～ 15:00	職場内教育（O J T）の方法 の理解Ⅱ	辻 智典氏（介護老人保健施設おおやけの里）
		15:10～ 17:30	職場内教育（O J T）の実践Ⅰ	平畠 みどり氏（京都福祉サービス協会人事部）

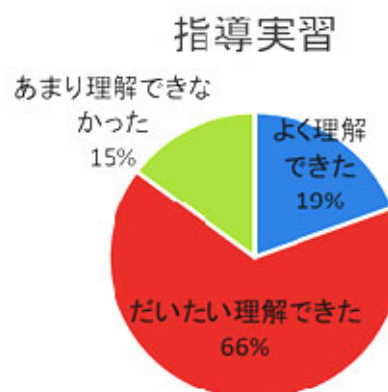
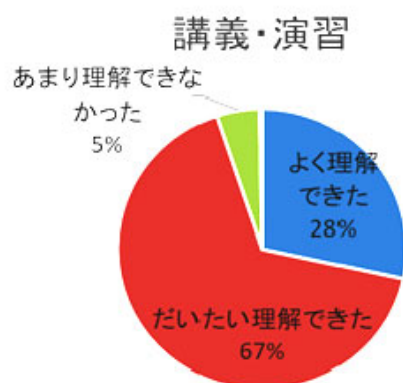
5 日 目	9月18日（水）	9:30 ～ 13:00	職場内教育（O J T）の実践Ⅱ	平島 みどり氏（京都福祉サービス協会人事部）
		14:00～ 15:00	職場内教育（O J T）の実践Ⅲ	細井 妙子氏（グループホーム四条大宮）
		15:10～ 17:30	職場実習の課題設定（Ⅱ）	辻 智典氏（介護老人保健施設おおよけの里）
職場実習		9月 19 日 （ 木 ） ～ 10 月 16 日（水）		
6 日 目	10月1日（火）	9:30～ 11:30	認知症施策の動向と地域展開①	橋本 千恵氏（京都市認知症介護指導者）
		11:40～ 14:30	認知症施策の動向と地域展開②	細井 妙子氏（グループホーム四条大宮） 鈴木 佳奈氏（エクセレント桂）
		14:40～ 17:30	実習フォロー	京都市認知症介護指導者
7 日 目	10月7日（月）	9：30～ 12：50	ストレスマネジメントの理論 と方法	平島 みどり氏（京都福祉サービス協会人事部）
		13:50～ 17：30	職場内教育（O J T）の実践 Ⅳ	平島 みどり氏（京都福祉サービス協会人事部）
8 日 目	10月17日（木）	9:30～ 17:00	結果報告 / 職場実習評価	京都市認知症介護指導者

職場実習	
実習先	受講者所属施設・事業所
実習目的	・研修で学んだ内容を生かして、自施設の現場職員の認知症ケアの能力評価、ケア課題の抽出、指導目標の設定や指導計画を作成し、認知症ケアに関する指導方法を理解する。
実習目標	・現場職員の認知症ケア能力の評価と課題の抽出を行うことができる。 ・現場職員の認知症ケアにおける指導目標を立案することができる。 ・指導目標に応じた指導計画を作成することができる。 ・講義・演習で学んだ指導方法を実際に活用することができる。
実習内容	実習計画に沿って実習協力者の認知症ケア能力について評価を行っていき、その結果を実習協力者と共有し、そのうえで実習協力者の認知症ケアに関する課題と目標を検討し指導計画を作成する。 【1週目】実習協力者への同意取得。実習協力者の認知症ケア能力の評価方法の作成と評価の実施 【2週目】実習協力者の認知症ケア能力の評価と課題の抽出 【3週目】評価結果の分析による指導目標の策定及び評価結果の共有 【4週目】認知症ケア指導計画書の作成、共有
職場実習フォロー	
目 的	実習の進捗状況や成果等を報告し課題と今後の方針を決定する。
結果報告／職場実習評価	
目 的	実習を通して認知症ケアの指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとしての指導の方向性を明確にできる。
目 標	・認知症ケアの指導方法の課題やあり方について客観的・論理的に考察し、報告することができる。 ・実習協力者への認知症ケア指導の課題を評価し、指導の方向性を計画にすることができる。

【科目の到達目標に対する自己評価】

科目の到達目標ごとに自己評価の段階別回答数を集計し、受講者全体としての理解度を示した。

評価基準		よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	ほとんど理解できなかった
講義・演習	到達目標数：43項目 回答のべ人数：1170人	332	778	57	3
	割合（％）	28％	67％	5％	0％
指導実習	到達目標数：4項目 回答のべ人数：108人	21	71	16	0
	割合（％）	19％	66％	15％	0％



【研修受講効果】

受講者自身の指導力の向上

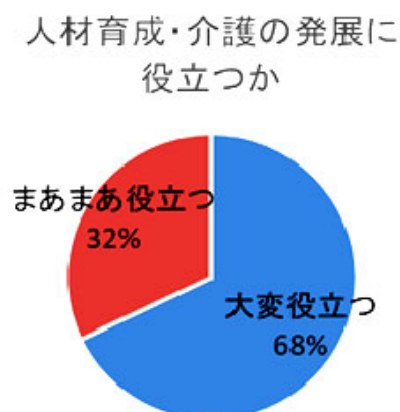
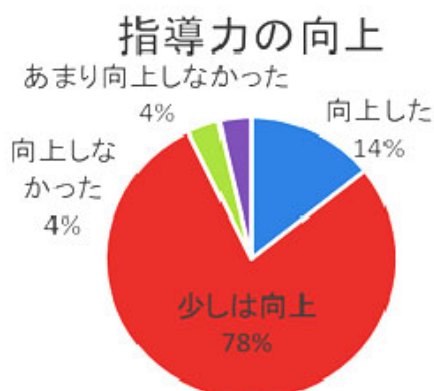
評価基準	向上した	少しは向上した	あまり向上しなかった	ほとんど向上しなかった
回答人数：28人	4	22	1	1
割合（％）	14％	79％	4％	4％

【研修終了後の管理者の評価】

研修での学びは事業所の認知症介護の発展及び人材育成に役立つか

（介護の発展・人材育成の項目ごとに集計した数字を2で割ったもの）

評価基準	たいへん役立つ	まあまあ役立つ	あまり役立たない	全く役立たない
回答人数：28人	19	8.5	0.5	0
割合（％）	68％	30％	2％	0％



令和6年度 京都市認知症介護実践研修 修了者数

実践者研修	合計	262 人	実践リーダー研修	28 人
	第1回	69 人		
	第2回	67 人		
	第3回	59 人		
	第4回	67 人		

研修企画・講師等に関わった京都市認知症介護指導者 概要

所属種別	実践者研修	実践リーダー研修
介護老人保健施設	8	7
認知症対応型共同生活介護	4	4
法人事務局	3	3
介護老人福祉施設	2	2
小規模多機能	2	2
居宅介護支援事業所	1	1
無所属	1	1
合計	21	20

区役所・支所福祉業務職員研修

令和6年度 区役所・支所福祉業務職員研修 の受託・実施

○対象：各区役所・支所保健福祉センターに勤務する現業員、事務員及び係長級職員等
(生活保護、児童・母子、障害、高齢の各福祉分野の従事職員)

○実施方法：参集型

【研修科目・実施日・講師・受講者数】

研修科目		実施日	講師	対象 者数	受講 者数
【新任職員研修】					
①	対人援助（クレーム対応を含む。）	6月17日	同志社大学社会学部 教授 空閑 浩人氏	132	102
②	要援護高齢者・認知症に係る相談援助の留意点	7月4日	株式会社ふくなかまジャパン 代表取締役社長 眞辺 一範氏	134	94
③	ひとり親家庭等に係る相談援助の留意点	7月24日	母子生活支援施設 野菊荘 施設長 芹澤 出氏	132	108
④	精神障害に係る相談援助の留意点	8月30日	YOUYOU 館・楽々堂 施設長 橋本 史人氏	131	101
⑤	社会保険（医療・雇用・労災・介護保険等）の基礎知識	10月7日	特定社会保険労務士 佐竹 康男氏	129	108
⑥	視覚・聴覚・知的障害に係る相談援助の留意点	9月9日	社会福祉法人南山城学園地域福祉支援センター島本 河野 翔太氏	130	105
⑦	社会福祉協議会の事業	12月2日	京都市社会福祉協議会	131	106
【2年目職員研修】					
⑧	発達障害に係る相談援助の留意点	6月26日	京都市発達障害者支援センター かがやき 上久保 美和子氏	118	110
⑨	児童虐待に係る支援ツール，関係機関	8月26日	西日本子ども研修センターあかし 研修事業課長 三木 馨氏	115	95
⑩	権利擁護（成年後見制度）の知識	9月2日	オギ法律事務所 荻原 卓司氏 京都市成年後見支援センター	118	92
【新任係長級職員研修】					
⑪	スーパービジョンの方法と実際	6月26日	龍谷大学社会学部 教授 栗田 修司氏	15	9
合計				1,285	1,030

発 行

社会福祉法人京都市社会福祉協議会

社会福祉研修・介護実習普及センター

(京都市長寿すこやかセンター 研修部)

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

ひと・まち交流館 京都

TEL 075-354-8771 / FAX 075-354-8808

<https://www.syakyo-kyoto.net>